

令和3年度に使用する中学校教科用図書の  
選定に必要な資料

令和2年度作成

鳥取県教科用図書選定審議会

国語

国語	国語	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい国語
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字は音訓が教材の脚注に示され、巻末の一覧表には画数、部首、筆順、音訓、用例がまとめられている。(1年 P303)</p> <p>イ 教材で学ぶ語句が脚注に示され、「広がる言葉」では語彙に関連した練習問題等が設定されている。(1年P14、P53)</p> <p>ウ 巻末の「言葉を広げよう」では、語句の学習に関連して3年間合計1555語の語彙が分類・掲載されている。(1年P328-331)</p> <p>エ 6人のキャラクターが登場する漫画調の「学びの扉」を本編の導入とし、関連する巻末の「学びを支える言葉の力」のページ番号が記載されている。(1年 P41、P238)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭の「一年で学ぶこと」では、各領域の学習で身に付けたい力が一覧表で示され、「学習の進め方・教科書の使い方」が掲載されている。(各学年P6-8、P10-12)</p> <p>イ 「読むこと」の教材では、「てびき」が示され、その中の「言葉の力」では、教材を通して身に付けたい力が示されている。(2年 P34)</p> <p>ウ 読書活動と読書案内とともに「読書への招待」が各学年で異なるテーマごとに複数設定されている。(2年 P72-88)</p> <p>エ QRコードの読み取りを通して、学習に関連する音声・映像等の資料や、「話すこと・聞くこと」の例示、練習問題・ゲーム等が活用できるよう、Dマークが掲載されている。(2年P128、P256)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「本編」「基礎編」「資料編」の3部構成で、本編は各学年7単元の他、複数の詩・読書教材で構成されている。</p> <p>イ 「基礎編」では、「学びを支える言葉の力」と文法解説、「資料編」では漢字・語句、読書教材、古典作品、「話すこと」「書くこと」の題材例や参考資料が掲載されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 3学年とも7単元で構成されている。</p> <p>イ 単元名が、学年ごとに系統的・発展的になっている。 (例)(1年「伝統文化に親しむ」) (2年「伝統文化を味わう」) (3年「伝統文化を受け継ぐ」)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材において、1年「浦島太郎」「伊曾保物語」が掲載されている。(P126-134)</p> <p>イ 鳥取県に関連した内容が掲載されている。(1年 P62「高槻成紀」、3年 P150「万葉集・大伴家持」)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 各学年の論説「ニュースの見方を考えよう」「正しい言葉は信じられるか」「いつものように新聞が届いた メディアと東日本大震災」において、メディアについて扱われている。(1年P184、2年P184、3年P184)</p> <p>イ 手書きに近い明朝体を使用され、色の違いで区別を示した箇所には、マークや文字情報が加えられている。(1年 P100、P253)</p> <p>ウ 古典教材は古文・漢文と現代仮名遣いに黒、口語訳に茶の2色が使用され、口語訳は下段にまとめて示されている。(1年P141)</p> <p>エ 1頁の行数が、1年は17行、2・3年は20行で構成されている。</p> <p>オ 上下2段に分かれる場合には、ページごとに上段から下段に5行ごとに通し番号が示されている。</p>

国語	国語	発行者番号 15	略称 三省堂	書名 現代の国語
----	----	----------	--------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字が脚注と教材末に示され、巻末に部首、筆順、画数、音訓、用例、同訓（音）異字、対義の漢字等がまとめられている。（1年P318）</p> <p>イ 教材で学ぶ語句が類義語や対義語とともに脚注に示され、教材末の「学びの道しるべ」の「語彙を豊かに」では、教材文に関連した語句の説明や課題が示されている。（1年P23、P51）</p> <p>ウ 「資料編」の「語彙の広がり」では、テーマに分けて語句同士の関係やつながり方に着目させている。（1年P310-313）</p> <p>エ 「資料編」の「思考の方法」一覧では、考えを整理したり深めたりする方法が全学年共通で9種類示されている。（1年P314-317）</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭に「領域別教材一覧」として、つけたい力と教材が表で示され、「確かな言葉の力をつけるために」では、教科書の使い方が示されている。（各学年P6-11、P12-14）</p> <p>イ 「読むこと」の教材末「学びの道しるべ」では、学習過程が示されている。（2年P28-29）</p> <p>ウ 巻末の折込で「読み方を学ぼう一覧」が提示され、読解の視点が示され、学年が上がるごとに積み上げられている。</p> <p>エ 「読書の広場」の「小さな図書館」では、テーマ別に7～8冊の書籍や作品が紹介されている。（2年P244-249）</p> <p>オ 本文シートやワークシートが活用できるよう、QRコードが掲載されている。（2年P113）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 8～9単元その他、巻末の「読書の広場」「資料編」で構成されている。</p> <p>イ 「読書の広場」では読書教材5作品が掲載され、「資料編」では情報活用・古典芸能・社会生活への活用・語彙・漢字等に関する資料が掲載されている。（2年P250-278、P280-351）</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 1・2年は9単元、3年は8単元で構成されている。</p> <p>イ 8つの単元と配列が、3学年とも統一されている。</p> <p>豊かに想像する わかりやすく伝える ものの見方・感性を養う 論理的に考える 古典に学ぶ 情報に関係づける 読みを深め合う 視野を広げる （振り返って見つめる）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 各学年の最初の説明文教材の前に、プレ教材としての「読み方を学ぼう」が折込形式で掲載されている。（1年P40-42）</p> <p>イ 鳥取県に関連した内容が掲載されている。（1年P260-263「古事記」、3年P67「俳句・尾崎放哉」）</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 複数の情報を関連づけて考えをまとめる学習において、防災、共生社会、情報社会 メディア・リテラシーについて掲載されている。（1年P144-145、2年P144-145、3年P142-147）</p> <p>イ 色や罫線、形の違い等の補助が加えられている。（3年P142、P146）</p> <p>ウ 古典教材は古文・漢文が黒、現代仮名遣いが茶、口語訳が青の3色が使用され、口語訳は下段にまとめて示されている。</p> <p>エ 1頁の行数が、1年は18行、2・3年は20行で構成されている。</p> <p>オ 上下2段に分かれる場合は、中央に5行ごとの行数が示されている。</p>

国語	国語	発行者番号 17	略称 教出	書名 伝え合う言葉 中学国語
----	----	----------	-------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字の音訓と用例が教材末に示され、巻末の一覧表には、画数、筆順、部首、音訓、用例がまとめられている。(1年P317)</p> <p>イ 教材で学ぶ語句が脚注と教材末に、3年間で学ぶ学習語句一覧が巻末に掲載されている。(1年P34、P40、P315)</p> <p>ウ 巻末の折込に「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」が掲載されている。</p> <p>エ 各教材の前に学習内容を認識するための「学びナビ」が設定され、その教材での学び方が示されている。(1年P18、P32)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭の「言葉の地図」では、学びを進めるキーワードや教科書の構成が説明され、各学年で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力が教材ごとに表で示されている。(各学年P6-12)</p> <p>イ 「みちしるべ」では、「読むこと」の教材の手引きが示され、単元の終わりの「広がる本の世界」では教材に関連したテーマの書籍が1頁で紹介されている。(2年P34、P42)</p> <p>ウ 「言葉と社会」や「学びのチャレンジ」では、発展的な課題が示されている。(2年P69、P236、P211-222)</p> <p>エ 「まなびリンク」では、学習に関連する音声・映像等の資料や練習問題が活用できるよう、QRコードが掲載されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各学年8~9単元の他、巻末の「言葉と文法 解説編」「言葉の自習室」「折込」「漢字」で構成されている。</p> <p>イ 「言葉の自習室」では、読書教材や話すこと・書くことテーマ例集が掲載されている。(2年P306-327)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1・2年は9単元、3年は8単元で構成されている。</p> <p>イ 単元のタイトルに、その単元に含まれる題材の一部が示されている。 (例)(1年P109「今は昔、竹取の翁といふ者ありけり」) (2年P93「紙管の工場は、日本中、世界中のどこにでもある」) (3年P165「地上の道のようなもの」)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材において、1年「桃太郎」「助長」が掲載されている。(1年P110-113、P124)</p> <p>イ SDGsを国語科の視点で教材化した総合「持続可能な未来を創るために」が各学年で設定されている。(1年P76-85)</p> <p>ウ 鳥取県に関連した内容が掲載されている。(1年裏表紙「志賀直哉」、3年P127「万葉集・大伴家持」、P171「俳句・尾崎放哉」)</p>
その他	今日の教育的な教育課題との関わりなど	<p>ア 課題を考えるためのキーワードが7つにまとめられ、各教材に国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連が示されている。(1年P6)</p> <p>イ 各学年で「持続可能な未来を創るために」と「メディアと表現」に関する教材が設定されている。(1年P76、P102)</p> <p>ウ 色や形の違いの補助が加えられている。(3年P216)</p> <p>エ 古典教材は、本文、口語訳、現代仮名遣いが黒、青、朱の3色の場合と、口語訳が下段に分けられて2色になる場合とがある。(2年P124)</p> <p>オ 1ページの行数が、1年は16行、2・3年は18行で構成されている。</p> <p>カ 上下2段に分かれる場合は、中央に5行ごとの行数が示されている。</p>

国語	国語	発行者番号 38	略称 光村	書名 国語
----	----	----------	-------	-------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字は音訓と用例が本文下段の脚注に示され、巻末の一覧表には画数、部首、筆順、音訓、用例、関連した慣用句・ことわざ・四字熟語等がまとめられている。(1年P302)</p> <p>イ 教材で学ぶ語句が脚注に示され、「学習の窓」や巻末「語彙を豊かに」では、学習で用いる言葉や心情、様子、行為を表す言葉などがまとめられている。(1年P22、P42、P300-301)</p> <p>ウ 1年のはじめに発声の仕方やノート例、辞書の引き方が示され、各学年「続けてみよう」では、「言葉の手帳」「情報メモ」「創作メモ」等が例示されている。(1年P16-20、2年P12等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻頭の「学習の見通しを持とう」では教材とつきたい力の表を、「思考の地図」では課題を解決するために用いる様々な思考法を、「教科書で学習するみなさんへ」では教科書の機能が、それぞれ示されている。(各学年P6-11)</p> <p>イ 「読むこと」の教材末では、上段に学習過程が、下段「学習の窓」に学習のポイントや身に付けたい力が示され、その一覧が「学習を広げる」として巻末に掲載されている。(2年P24、P260)</p> <p>ウ 読書活動や読書案内とともに、「読書に親しむ」と「読書生活を豊かに」が各学年で異なるテーマを掲げて設けられている。(2年P188-194)</p> <p>エ 関連する音声や映像が活用できるよう、QRコードが掲載されている。(2年P18、29)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各学年8単元の他、巻末の「文法・漢字・振り返り」「学習を広げる」で構成されている。</p> <p>イ 「学習を広げる」では「学習の窓」「思考のレッスン」「情報レッスン」の一覧において、文章を読むための基本的な観点や情報についての基本的な観点等が示されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 3学年とも8単元で構成されている。</p> <p>イ 単元名は、3学年とも共通しているものと、学年ごとに系統的・発展的に変更しているものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通「情報社会を生きる」「読書生活を豊かに」</li> <li>・変更「いにしえの心にふれる(1年)」「いにしえの心を訪ねる(2年)」</li> </ul>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典教材において、導入教材として、「いろは歌」「古典の世界」が掲載されている。(1年P154-157)</p> <p>イ 比較して読むことができる教材が複数掲載されている。(2年P170-183、3年P124-129)</p> <p>ウ 鳥取県に関連した内容が掲載されている。(2年P292-294「尾崎放哉」、3年P74「俳句・尾崎放哉」、P150「万葉集・大伴家持」)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「情報社会を生きる」という単元が各学年で設定されている。(1年P60、2年P60、3年P62)</p> <p>イ 色の違いで区別を示した箇所、マークや文字情報が加えられている。(1年P246、2年P43)</p> <p>ウ 1年古文の口語訳は行間に青、現代仮名遣いは古文の右に黒で記されている。(1年P161)</p> <p>エ 1頁の行数が、1年は17行、2・3年は20行で構成されている。</p> <p>オ 行数が5行ごとに示されている。</p>

書寫

国語	書写	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい書写
----	----	---------	-------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「とん、すう、ぴたっ」「すっ」「ぐっ」の言葉で筆の運びが表現されている。(P10等)</p> <p>イ 单元ごとに「書写テスト」が設けられている。(P25等)</p> <p>ウ 行書を書くときの動きが、「四つの動き」として示されている。(P32)</p> <p>エ 文字を正しく書くためのポイントが「書写のかぎ」で示されている。(P13-15等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア はじめに「書写で学ぶこと」が学年ごとに示され、生活の中で役立つ場面について紹介されている。(P2-3)</p> <p>イ 「振り返って話そう」では、目標に対して確認したことや理解したことなどを説明する活動が取り入れられている。(P14、P16等)</p> <p>ウ 目次にある「アドレス」や「コード」を読み取り運筆等を閲覧できるよう、教材の右下に「D」マークが示されている。</p>
内容の構成・配列について	单元構成の工夫(单元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」で構成されている。(P14-15等)</p> <p>イ 学んだことを生活に生かすことができるよう、各学年に1・2箇所の活用单元「生活に広げよう」が設けられている。(P26-27、P64-65、P91-92等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年「小学校の学習を振り返ろう」では、要点が記載され、練習のための「書いてみよう」が設けられている。(P8-12)</p> <p>イ 1年「行書の書き方を学ぼう」の冒頭では、行書の特徴をとらえるために漫画が取り入れられている。(P30)</p> <p>ウ 3年では、手書き文字の例が多く掲載されている。(P80-92)</p>
	特徴的な单元における課題の構成の工夫	<p>ア 「生活に広げよう」では、身に付けた知識や技能をどのように生活に生かすかを話し合う活動が設定されている。(P64-65、P75-77、P91-93)</p> <p>イ 巻末では、「書写活用ブック」として、日常生活に用いられるさまざまな書式が示されている。(書写活用ブック P2-9)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 伝統・文化に関する学習として「文字のいずみ」が設けられ、文字の成り立ちや伝統的な用具・用材について取り上げられている。(P28-29、P40-41)</p> <p>イ 原則として、教材文字が上に、書き込み欄が下に配置されている。(P10等)</p> <p>ウ ゴシック体には、UDフォントが採用されている。</p>



国語	書写	発行者番号 15	略称 三省堂	書名 現代の書写
----	----	----------	--------	----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「書いて身につけよう」では、「なぞる」「中心線」「白マス」の段階に分けて練習する欄が設けられている。(P20-23、P44-45等)</p> <p>イ 「書いて身につけよう」では、「姿勢に気をつけよう」「持ち方に気をつけよう」のマークが掲載されている。(P30等)</p> <p>ウ 「基礎編」では、姿勢や構え方、筆の持ち方等が動画で閲覧できるよう「二次元コード」が掲載されている。(P8、P10、P12等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「この教科書で学ぶ皆さんへ」では、「自分の文字をよりよくするために」として、学習の流れが図で示されている。(P4)</p> <p>イ 「一年生の私の文字」と「三年生の私の文字」を比較できるページが設けられている。(P6)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「目標」「書き方を学ぼう」「毛筆で書こう」「硬筆に生かそう」「振り返り」「自分で学んだことを書き残そう」で構成されている。(P36-47等)</p> <p>イ 「書き方を学ぼう」では、具体的な事例を挙げて習得すべき書き方のポイントが示されている。(P14-15、P26等)</p> <p>ウ 毛筆で習得したことを日常生活で活用できるよう、硬筆で練習するための「書いて身につけよう」が設けられている。(P30-33等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年では、文字を手書きすることの意義を認識できるよう、「文字の変遷」が掲載されている。(P34-35)</p> <p>イ 1年では、行書の特徴「点画の丸み」を取り上げ、教材文字が設けられている。(P38-39)</p> <p>ウ 2年では、「楷書と行書の使い分け」をする場面が示され、書体を選択して書く欄が設けられている。(P64-65)</p> <p>エ 3年では、高等学校の「書道」への関心が高まるよう、「篆刻」に関する内容や、「書の古典」として中国・日本の優れた筆跡が紹介されている。(P76、P80)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「グループ新聞を作ろう」「情報誌を作ろう」「名言集を作ろう」では、グループでの学習活動が設定されている。(P48-49、P66-67、P76-79)</p> <p>イ 「資料編」では、「日常の書式」として、時候の挨拶が手書き文字で示されている。(P86-87)</p>
その他	今日の教育的課題との関わりなど	<p>ア 身の回りの文字文化に触れるため、「文字の変遷」「身のまわりの文字」「文房四宝」が取り上げられている。(P34-35、P72-75、P90-91)</p> <p>イ 職業観が養えるよう、手書き文字の魅力や伝えている人物が取り上げられている。(P74-75)</p> <p>ウ 原則として、教材文字が上に、書き込み欄が下に配置されている。(P20等)</p> <p>エ ユニバーサルデザインに配慮され、形や記号・番号、説明文などの補助的な手がかりが設けられている。(P24-25等)</p>

国 語	書 写	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学書写
-----	-----	----------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 原寸大の毛筆手本に、中心線や字形を整えるための補助線が示されている。(P16-17等)</p> <p>イ 筆の運びが写真で大きく示されている。(P45)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア はじめに、3年間のねらいが日常生活と関連づけて提示されている。(P4-5)</p> <p>イ 目標に対して、○か で振り返る欄が設けられている。(P8等)</p> <p>ウ 「小学校で学習した漢字一覧表」では、楷書・行書を理解し応用しやすいよう、共通する点画や似通った部分に分けて漢字が配列されている。(P113-125)</p> <p>エ 目次にあるコードを読み取り運筆等を閲覧できるよう「まなびリンク」マークが示されている。(P18-19等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」という構成になっている。(P16-19等)</p> <p>イ 主体的な学びが促せるよう、「気づいたこと」を書き込む欄や話し合う活動が設定されている。(P43、P78等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 巻末の「芸術としての書道」では、高等学校の「書道」へのつながりを意識させるよう、「料紙」に書かれた「古今和歌集」が取り上げられている。</p> <p>イ 1・3年の行書では、2つの特徴を同時に学習する教材が設定されている。(P46-51、P88-89)</p> <p>ウ 3年「三年間の学習の成果を生かそう」では、三年間の学習を生かして効果的に書くための選択教材が設定されている。(P98-99)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 身の回りの多様な表現方法で効果的に書く学習活動が多く取り入れられている。(P30-37、P68-85、P94-99)</p> <p>イ 1・2年では他教科での学習活動に生かせるような教材が掲載され、全編では「書式の教室」として学校生活や社会生活で用いられる書き方が取り扱われている。(P30-37、P82-85、P100-107)</p> <p>ウ 巻末に「書写テストで確認」が設けられている。(P108-109)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 文字文化への理解・関心を深める学習として、「コラム」の中に「筆記具の作り方」「文字の変遷」「活字や手書き文字」「日本建築と『書』」が掲載されている。(P22-23、P38-39、P54、P56-57、P80-81)</p> <p>イ 原則として、教材文字が上に、書き込み欄が下に配置されている。(P18等)</p> <p>ウ カラーユニバーサルデザインや表現方法、ゴシック体にはUDフォント等の工夫がされている。</p>

国語	書写	発行者番号 38	略称 光村	書名 中学書写
----	----	----------	-------	---------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 書く力の定着が図れるよう「書写ブック（硬筆練習帳）」が綴じ込まれている。（P1-28）</p> <p>イ 「トン、スー、トン」の言葉で始筆や終筆が表現されている。（P41等）</p> <p>ウ 穂先の写真を用いて筆使いが具体的に示されている。（P56-57等）</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 目標に対し、☑をして学習を振り返る欄が設けられている。（P40-41等）</p> <p>イ 常用漢字が横配列にしてあり、音や画数で色分けがされている。（P120-140）</p> <p>ウ コードを読み取り、運筆や用具の片づけ・準備等の動画が閲覧できるよう、「二次元コード」が掲載されている。（P32等）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 「目標」「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「学習を振り返る」という構成になっている。（P40-41等）</p> <p>イ 教材の冒頭に考えたり話し合ったりする活動が設定されている。（P66, P70等）</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 1年の行書では、「点画の変化」を学ぶための教材が3つ設定されている。（P58-63）</p> <p>イ 3年では、1年生から学習してきたことを確かめて自分の課題が考えられるよう、「三年間のまとめ」が設けられている。（P100-101）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 学んだことを学校生活に生かす学習活動が設定されている。（P50, P80-82, P108）</p> <p>イ 巻末では、「日常に役立つ書式」として、学校生活や社会生活で用いられる書き方が取り扱われている。（P110-118）</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 文字文化への理解・関心を深める学習として、「コラム」の中で文字の歴史やUD書体の特徴などが掲載されている。（P88-89, P98-99）</p> <p>イ 大切なことがわかるよう、情報が精選され、レイアウトが工夫されている。</p> <p>ウ 識別できる色の組み合わせになるよう工夫され、目次や小さな文字にはUDフォントが採用されている。</p>

# 地理

社 会	地 理	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい社会 地理
-----	-----	---------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 見開き1単位時間の紙面が「導入資料」「学習課題」「本文」「チェック&amp;トライ」の流れで構成されている。</p> <p>イ 学習に必要な技能の定着を図ることができるよう、基礎的な知識・技能を習得させる「スキル・アップ」が設けられている。(P15、17、51等)</p> <p>ウ 思考力・判断力・表現力が高められるよう、各見開きに短時間の説明・要約等で学習内容をまとめる「チェック&amp;トライ」が設けられている。</p> <p>エ 学習内容を整理することで、基礎基本の定着が図れるよう、編末や章末に「基礎・基本のまとめ」が設けられている。(P32、P53、P72等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習が深められるよう、各単元の導入部分に、単元で活用する「見方・考え方」が示され、学習の過程に適宜「見方・考え方」を働かせるコーナーが設けられている。(P7、P35、P55等)</p> <p>イ 思考ツールを活用して学習内容を考察できるよう、「ウェビング」「ツールミン図式」などが掲載されている。(P113、P207、P255等)</p> <p>ウ 対話的な学びが効果的に実践できるよう、小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」コーナーが設けられている。(P13、P19、P21等)</p> <p>エ ICT機器を利用して学習できるDマークコンテンツが付されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編では「世界と日本の姿」を概観し、第2編「世界のさまざまな地域」、第3編「日本のさまざまな地域」が配置され、3編構成となっている。</p> <p>イ 第1編で「世界の姿」と「日本の姿」を捉え、第2編「世界のさまざまな地域」は6州区分を、第3編「日本のさまざまな地域」は「地域調査の手法」と「日本の地域的特色と地域区分」を把握してから7地方区分を学ぶ配置がされている。</p> <p>ウ 「地形図」の学習が、第3編第1章の「地域調査の手法」において地域を調査する方法のひとつとして学ぶ配置となっている。(P144-147)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年「世界と日本の姿」では世界と日本の姿を概観し地理的な見方・考え方を身に付けるための基礎を学ぶ構成となっている。(P8-30)</p> <p>イ 第2学年では、第3編第4章の「地域の在り方」において身近な地域の課題をまとめ提案する工夫がされている。(P270-281)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 7年間の社会科学習が系統的に展開できるよう、各章の章扉に「小学校の社会で習ったことば」として、学習を振り返る場面が設けられている。(P6、P54、P183等)</p> <p>イ 3分野を関連させた学習が展開できるよう、特設ページ「もっと地理」が3分野共通で掲載されている。(P70、P96、P166-167等)</p> <p>ウ 正しい理解や解決に向けての意識が高められるよう、領土をめぐる問題の現状、地理的背景などが本文やコラムで扱われている。(P24-27)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 現代的な諸課題を理解し、課題を解決しようとする態度が養えるよう、世界の諸地域の学習の導入や「地域の在り方」の学習で「持続可能な開発目標(SDGs)」が取り上げられている。(P55、P270)</p> <p>イ 環境の保全に寄与する態度が養えるよう、地球環境問題に関する多様な教材が掲載されている。(P80-81、P114-121、P134等)</p> <p>ウ 防災・安全への主体的な意識や態度が養えるよう、自然災害の地理的要因、復旧・復興、防災・減災への取組等が取り上げられている。(P164-167、P189、P252-253)</p> <p>エ 情報や技術に関する課題と展望について考察が深まるよう、地球規模で整備が進む交通・通信網等が取り上げられている。(P96、P196)</p>

社 会	地 理	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学社会 地理 地域にまなぶ
-----	-----	----------	-------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア キャラクターの問いから学習が展開し、見開き2ページの左上部分に、学習の導入または中心となる資料が配置されている。</p> <p>イ 学習事項の確認、整理ができるよう1時間で学習したことを整理しながらまとめる「確認」が設けられている。(見開きページ右下)</p> <p>ウ 基礎的・基本的な技能の習得が図れるよう、「読み解こう」により、資料を読み取り考察する学習活動が設定されている。(P23、P26、P43等)</p> <p>エ 章や節の末尾の「学習のまとめと表現」において、地図を用いての確かめ、テーマについてまとめる「表現しよう」、まとめた意見について互いに話し合う「意見を交換しよう」が設定されている。(P46、P65、P91等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 地理的事象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動ができる「表現」が設けられている。(見開きページ右下)</p> <p>イ 課題意識をもって資料が読み取れるよう地図やグラフなどの諸資料に「Q」のマークを付した問いかけが設けられている。(P20、P22、P35等)</p> <p>ウ 個人で追究したりグループで調べ学習を進めたりすることができるよう学習に役立つ情報を得られる「まなびリンク」が掲載されている。(P9、P29、P47等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編では世界と日本の地域構成を概観し、第2編に世界地理、第3編に日本地理が配置され、3編構成となっている。</p> <p>イ 第1編で「世界の地域構成」と「日本の地域構成」、第2編第2章「世界の諸地域」は6州区分を、第3編「日本のさまざまな地域」で「地域調査の方法を学ぼう」と「日本の特色と地域区分」を把握してから7地方区分が学べる配置がされている。</p> <p>ウ 「地形図」の学習は、第3編第1章「地域調査の方法を学ぼう」で地域を調査する方法のひとつとして学べる配置がされている。(P138-141)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年では、第1編「世界と日本の諸地域」で世界と日本の姿を概観「地理的な見方・考え方」を身に付けるための基礎が学べる構成になっている。(P10-27)</p> <p>イ 第2学年では、第3編第4章の「地域の在り方」において身近な地域の課題を調査し、発信する工夫がされている。(P274-281)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 学習内容を各分野の観点から学び、総合的に理解できるよう、見開き右ページ下に「関連」が掲載されている。(P23、P25、P27等)</p> <p>イ 日本の重要な課題について多面的に理解、考察できるよう、第1編第2「日本の領土問題をめぐって」では、日本の領土をめぐる対立や現状について資料が掲載されている。(P24-25)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 冒頭に「地球的課題とSDGs」が掲載され、世界地誌学習においても州ごとに取り上げる地球的課題が示されている(P、P49、P67等)</p> <p>イ 実感をもって防災学習が深められるよう、第3編第1章で地域の防災について調べる学習が扱われている。(P142-143)</p> <p>ウ 宗教の違いをめぐる対立や紛争の背景を通して、共存の在り方について考察が深まるよう工夫されている。(P45、P79、P104等)</p> <p>エ 多角的な理解が深まるよう少子高齢化が進む日本の状況について具体的な事例と人口ピラミッド等のグラフが用いられている。(P162-165)</p>

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「技能をみがく」では、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な技能が習得できるよう配置されている。(P17、P24、P29等)</p> <p>イ 基礎的・基本的な知識・技能が理解できるよう、導入 学習課題 本文 振り返り(「確認しよう」「説明しよう」という展開で統一し、構成されている。</p> <p>ウ 本文の横に難解な用語の解説が示されている。(P8、P20、P37等)</p> <p>エ 「章・節の学習を振り返ろう」では、学習した知識をもとに「地理的な見方・考え方」を働かせながら振り返ることで、「深い学び」につなげられるよう工夫されている。(P13、P65、P81等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単元を通して課題解決的な学習ができるよう、単元を貫く「章の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」「章・節の学習を振り返ろう」と問いが構造化されている。</p> <p>イ 「節の学習を振り返ろう」では、さまざまな学習のまとめ方が例示されている。(P65、P81、P93等)</p> <p>ウ 自学自習しやすいよう、学習内容に関連する動画や章末問題の解答等が閲覧できる二次元コードが掲載されている。(巻頭3等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1部では世界と日本の地域構成を概観し、第2部に世界地理、第3部に日本地理、第4部で「地理的な見方・考え方」を働かせて地域の在り方を学ぶ4部構成になっている。</p> <p>イ 第1部で「世界と日本の地域構成」を捉え、第2部「世界のさまざまな地域」で6州区分を、第3部「日本のさまざまな地域」で「日本の地域的特色」を把握してから7地方区分が学べる配置になっている。</p> <p>ウ 「地形図」の学習が、第3部第1章の「身近な地域の調査」で地域を調査する方法のひとつとして学べる配置になっている。(P134-137)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年では、第1部「世界と日本の地域構成」で世界と日本の姿を概観し、地理的な見方・考え方を身に付けるための基礎が学べる構成になっている。(P2-25)</p> <p>イ 第2学年では、第4部「地域の在り方」において、既習内容に関連させ、持続可能な社会について考えられる構成になっている。(P285-295)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 平和的な解決の方法について考えられるよう、日本の領土に関する現状と課題が示されている。(P18-21)</p> <p>イ ページ下段に「小学校・歴史・公民との関連」が設けられ、関連用語が提示されている。(P2、P4、P6等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「持続可能な開発目標(SDGs)」と地理的事象との関連について意識できるコラムや特設ページが設けられている。(巻頭1・2、P69、P91等)</p> <p>イ 日本各地で行われる防災への取組について学び、災害への備えや行動について主体的に考えられるよう工夫されている。(P148-153)</p> <p>ウ コラム「未来に向けて 共生」において多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度が育めるよう工夫されている。(P57、P87、P89等)</p>

社 会	地 理	発行者番号 116	略称 日文	書名 中学社会 地理的分野
-----	-----	-----------	-------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 習得した知識・技能を用いて文章化・言語化できるよう、基礎的・基本的な知識・技能の定着をねらいとした学習活動や考えを説明させる問いが提示された「確認」が設けられている。(見開き右下)</p> <p>イ 必要な情報の読み取りなどの技能が高められるよう、資料を用いた活動を示す「資料活用」が設けられている。(P37、P46、P49等)</p> <p>ウ 学習に必要な地理的技能が6種類に整理され、発達段階に応じて系統立てて学習できる「スキルUP」が設けられている。(P9、P41、P51、P87等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「トライ」「深めよう」「資料活用」「アクティビティ」など、問いや活動が設けられ主体的に学習を行うための教材やツール等が紹介されている。(P15、P51、P197等)</p> <p>イ 「見方・考え方」が設けられ、学習課題の解決に向けての手がかりとなる地理的な見方・考え方の例が示されている。(P8、P10、P12等)</p> <p>ウ ウェブサイト上で公開している教材にアクセスすることで、家庭学習への配慮がされるよう、「デジタルマーク」が設けられている。(P28、P30、P34等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1編では「世界と日本の地域構成」を概観し、第2編に世界地理、第3編に日本地理が配置され、3編構成となっている。</p> <p>イ 第1編で世界と日本の地域構成を捉え、第2編第2章「世界の諸地域」で6州区分を、第3編「日本のさまざまな地域」で「日本の地域的特色と地域区分」を把握してから7地方区分が学べる配置となっている。</p> <p>ウ 「地形図」の学習が、第3編第1章の「地域調査の手法」において調査する方法のひとつとして学べる配置になっている。(P120-125)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1学年では、第1編「世界と日本の姿」において世界と日本の姿を概観し、「地理的な見方・考え方」を身に付けるための基礎が学べる構成になっている。(P2-21)</p> <p>イ 第2学年では、第3編第4章の「地域の在り方」において身近な地域の課題をまとめ提案する工夫がされている。(P263-273)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 習得した知識が活用できるよう、小学校での学習や歴史・公民的分野の学習のつながりが示された連携コーナーが設けられている。(P1-2、P18等)</p> <p>イ 日本の領域をめぐる諸問題の解決に向けて、どのような取組が必要かを考えさせる工夫がされている。(P1、P2、P18等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 3編3章の章末でSDGsの17の目標が示され、既習内容をSDGsの視点から振り返り、4章で地域課題を見出し、地域の在り方を構想することができるよう構成されている。(P66-67、P94-95、P262)</p> <p>イ 生命や安全の確保に主体的に取り組むことができるよう、様々な災害・防災について実践的な活動が取り上げられている。(P132、P144-151、P244-245等)</p> <p>ウ 世界や日本の今日的課題について、「地理+」や「自由研究」で学習を掘り下げ、理解を深めていける最新のトピックスが具体的に紹介されている。(P56、P79、P93等)</p>



# 歷史

社 会	歴 史	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい社会 歴史
-----	-----	---------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 本時の学習の時代が視覚的につかめるよう、見開き 2 ページ左下に時代スケールの年表が掲載されている。(P20、P22、P24 等)</p> <p>イ 学習で身に付けた知識を整理し活用できるよう、見開き2ページ右下に「チェック&amp;トライ」が掲載されている。(P21等)</p> <p>ウ 「スキル・アップ」(20項目)で「集める・読み取る・まとめる」など、歴史学習を進めていく上での「学びの基礎・基本」が身に付く工夫がされている。(P9、P11、P15等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「もっと歴史」では、既習内容をさらに深め、広げ、異なる視点でとらえられるよう設定されている。(P54-55、P90-91、P140-141等)</p> <p>イ 「みんなでチャレンジ」では、グループ活動や話し合い活動が設定されている。(P7、P12、P19等)</p> <p>ウ 「歴史にアクセス」では、既習内容について資料を使いさらに詳しく学ぶことができるよう工夫されている。(P8、P47、P49等)</p> <p>エ 自主的に学習を進めることができるよう、Dマークのついた教材には、二次元コードが掲載されている。(P8、P15等)</p> <p>オ 各章の最後に、思考力、判断力、表現力を生かす「まとめの活動」がある。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章の導入として、小学校での既習内容を復習し、学習の見通しが持てるよう、「導入の活動」が設定されている。(P18-19、P62-63、P98-99等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 小学校で学んだ人物のイラストを使って復習できるよう、第1章導入「歴史のとびら」が設けられている。(P6-7)</p> <p>イ 地理・公民の他分野と「分野関連」マークを付けて関連させたり、地図帳との関連付けがされたりしている。(P267-269、P270-272等)(P26、P28、P36等)</p> <p>ウ 国語や理科など、他教科との関連が「教科関連」マークで示されている。(P15、P25、P51等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「地域の歴史を調べよう」では、身近な地域の歴史を調査学習する課題が設定されている。(P56-57、P92-93、P142-143等)</p> <p>イ 「もっと歴史」では、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」というテーマが設定されている。(P54-55、P90-91、P140-141、P198-199、P272-275)</p> <p>ウ 巻末には「さくいん」の他に、用語解説がある。(P284-289)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 北方領土、竹島、尖閣諸島について、写真や歴史的な資料が掲載されている。(P180-181)</p> <p>イ 「地域の歴史を調べよう」では、東京大空襲について取り上げられ、探究的な学習の形で紹介されている。(P244-245)</p> <p>ウ 「もっと歴史」の「震災の記憶を語りつくぐ」では、東北地方のいくつかの町の取組などが掲載されている。(P274-275)</p> <p>エ 持続可能な社会に向けて、SDGsの説明がある。(P270-271)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学社会 歴史 未来をひらく
-----	-----	----------	-------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 難解な用語等について、側注や「解説」で説明されている。(P21、P22、P23等)</p> <p>イ 本時の学習がどの時代のものかが視覚的にとらえられるよう、見開きページのタイトル上に時代スケールの年表が掲載されている。(P20、P22、P24等)</p> <p>ウ 学習課題の振り返りができるよう、見開き2ページの右下の「確認」と「表現」が設定されている。(P20等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 自主的・自発的に学習が深められるよう、二次元コード「まなびリンク」が掲載されている。(P17、P59、P95等)</p> <p>イ 学習課題の接続ができるよう、見開き2ページの上に出てくる人物の問いかけを考える活動が設定されている。(P21、P22、P24等)</p> <p>ウ 学びが深められるよう、「歴史の窓」「歴史の技」「身近な地域の歴史を調べよう」「歴史を探ろう」が設定されている。(P63等、P23等、P36等、P52等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章の「学習を始めよう」では、この章で学ぶ主題がクエスチョン(Q)形式で設定されている。(P18-19、P60-61、P96-97等)</p> <p>イ 各章の終わりには「学習のまとめと表現」として、その章(世代)を年表・人物・地図・絵などの視点で振り返らせる設定になっている。(P56-57、P92-93、P142-143等)</p> <p>ウ 「見方・考え方」の例として、時期や推移、比較、関連が挙げられ、説明されている。(P7)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 第1章「歴史の流れをとらえよう」では、小学校の既習人物を用いて歴史すごろくに取り組ませ、ゲームの要素を入れながら中学校での学びの導入にする工夫がされている。(P2-3)</p> <p>イ 小学校での既習人物等には「小学校」のマークが付けられ、小学校での学びとリンクさせている。(P40、P46、P47等)</p> <p>ウ 「関連」の印で地理や公民の学習とのつながりが示されている。(P5、P36、P52)</p> <p>エ 巻末の年表が見開き5ページで作成され、原始から現代までが一度に見られる工夫がされている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「歴史を探ろう」の「神話にみる古代人の信仰」では、出雲大社や鳥取県日南町の神楽の様子が紹介されている。(P54-55)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「歴史を探ろう」の「日本の領土をめぐる課題」では、日本の領土・領海の地図や写真が掲載されている。(P268-269)</p> <p>イ 「歴史を探ろう」の「戦争の記憶をつなぐ人々」「平和と共生を願う人々」では、平和学習についての題材が取り扱われている。(P248-P249、P284-P285)</p> <p>ウ 持続可能な未来の実現に向け、SDGsの世界を変える17の視点を用いた単元が最終章に設けられている。(P289)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 46	略称 帝国	書名 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
-----	-----	----------	-------	---------------------------

項目		特徴
学 習 方 法 工 夫 に つ い て	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「技能をみがく」を設け、歴史の見方・考え方を身に付けるための技を育てる工夫がされている。(P5、P7-10、P37-38等)</p> <p>イ 学んでいる時代が分かるよう、全ての右ページの右側に年表が掲載されている。</p> <p>ウ 難しい用語について、「解説」で説明されている。(P16、P19、P21等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 自主的な学習が進められるよう、二次元コードが設けられている。(P14、P34、P48、P56等)</p> <p>イ 「人物コラム」では、様々な立場の人々が紹介され、巻末の「人物さくいん」ではその人物がどの分野で活躍したかで色分けされ、記載されている。(P18、P22、P23等、P288-289)</p> <p>ウ 章末では、左ページは知識、右ページは問いに対する振り返りができるように、「章の学習を振り返ろう」が設けられ、節の最後では「節の問いを振り返ろう」で学んだことが説明され、表現力の育成をはかることができるよう工夫されている。(P23、P31、P56-57等)</p> <p>エ 「歴史を探ろう」・「地域史」では、当時の社会を地域の視点で眺め、具体的事例を通じて学ぶことができるよう工夫されている。(P32-33、P72-73、P120-121等)</p>
内 容 構 成 の ・ 配 列 に つ い て	単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章のはじめでは、見通しをもって学習に取り組めるよう、「章の問い(単元を貫く問い)」が設けられている。(P14、P60、P94等)</p> <p>イ 各節のはじめでは、「節の問い」が設けられている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各章のはじめ「タイムトラベル」では、前の時代と比較することで歴史的な見方・考え方を培い、疑問点を見つけることでその時代の特色がつかめる工夫がされている。(P24-25、P34-35、P48-49等)</p> <p>イ 日本の歴史を世界の動きと関連させて学ぶことができるよう、ワイドなイラスト地図が設けられている。(P42-43、P98-99、P156-157)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 文化史は、伝統文化への関心が高められるよう、4ページ以上で構成され、写真で紹介されている。(P42-47、P52-55、P66-69等)</p> <p>イ 異なる意見や資料を通して多面的・多角的に考察し、思考力・判断力・表現力がつけられるよう、「多面的・多角的に考えよう」が設けられている。(P144-145、P188-189、P230-231)</p>
そ の 他	今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 領土について、本文と「歴史を探ろう」で説明されている。(P266-267)</p> <p>イ 「歴史を探ろう」では、満州移民、沖縄戦が取り上げられている。(P240-P241、P250-251)</p> <p>ウ 歴史を多角的にとらえることができるよう、環境・交流・人権・平和の視点で先人の取り組みが紹介されている。(P51、P77、P83)</p> <p>エ 未来に向けて、多面的・多角的に考える単元が最終章に設けられている。(P286-287)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 81	略称 山川	書名 中学歴史 日本と世界
-----	-----	----------	-------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 分かりにくい用語は、同ページに「用語解説」が設定されている。(P17、P18、P20等)</p> <p>イ 振り返りができるよう、各章末には「まとめ」のページが設けられている。(P60-61、P100-101、P152-153等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ホームページや動画・音声などを見たり聞いたりできるよう、二次元コードが掲載されている。(P47、P59、P88等)</p> <p>イ 自主的・自発的な学びができるよう、資料やグラフ、写真などの横に発問がつけられている。(P17、P18、P20等)</p> <p>ウ 「身近な地域を調べよう」で地域学習の方法を詳しく説明し、その具体例として「地域からのアプローチ」では、日本の7つの地域を取り上げ、地域を通しての歴史学習が設定されている。(P46-47、P58-59、P68-69)</p> <p>エ 「コラム」で内容が詳しく説明され、「人物コラム」で歴史上人物のエピソードが紹介されている。(P16、P19、P24等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章の扉には、日本史と世界史の時代を上下に分けて示す帯年表が関連資料とともに示されている。(P14-15、P62-63、P102-103等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 世界史の内容が、高等学校の教科書レベルで記載されている。(P20-21、P24-25、P104-109等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「歴史を考えよう」では、文学・美術作品や資料などで課題を話し合い、考察できるよう工夫されている。(P56-57、P76-77、P95-96等)</p> <p>イ 「歴史へのアプローチ」では、歴史を深く学ぶことができるよう、専門性が高い内容が記載されている。(P32-33、P78-79、P88-89等)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 日本の領土について、「歴史へのアプローチ」で説明されている。(P266-267)</p> <p>イ 「地域からのアプローチ」では、沖縄について琉球王国から現代までが扱われている。(P276-277)</p> <p>ウ 「歴史へのアプローチ」では、日本の植民地支配について説明されている。(P200-201)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 116	略称 日文	書名 中学社会 歴史的分野
-----	-----	-----------	-------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1時間が見開き2ページで構成され、重要語句が太字と小見出しで示され、「基本用語」では、歴史上の重要語句・重要事象が解説されている。(P20、P24、P25)</p> <p>イ 学習課題の振り返りができるよう、見開き2ページの右下の「確認」が設定されている。(P19、P21、P23等)</p> <p>ウ 歴史的事象の流れや起きた場所などが確認でき、歴史的事象の定着が図れるよう、各ページに小年表や小地図が配置されている。(P30等)</p> <p>エ 学んでいる時代がわかるよう、右ページの横に年表が付けられている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア デジタル資料が使えるよう、デジタルマークが掲載されている。(P32、P34、P74等)</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びが実践できるよう、「チャレンジ歴史」と「アクティビティ」が設定されている。(P34-35、P74-75、P136-137等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各編の導入部の「地図で見る世界の動き」ではその編の内容を年表と地図で概観させ、編の終わりでは「学習の整理と活用」でもう一度年表と地図で振り返りをさせる構成になっている。(P66-67等、P104-105等)</p> <p>イ 巻末の年表が9ページで構成され、教科書との関連が示されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 中学校の授業の導入が出来るよう、小学校で学習した人物や文化財をイラストや写真で振り返らせる設定になっている。(P6-7)</p> <p>イ ページの下に小学校地理・歴史との連携が示されている。(P30、P40、P42等)</p> <p>ウ 国語、道徳、美術など他教科との関連が示されている。(P131、P247、P308)</p> <p>エ 実物大の江戸図屏風や、室町時代の洛中・洛外図屏風と江戸図屏風が見開き4ページで掲載されている。(P106-109)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「歴史を掘り下げる オリンピック・パラリンピックの歴史」で2020東京五輪・パラリンピックや大阪・関西万博について記述され、近代五輪の理念や万博との関わりが扱われている。(P280-281)</p> <p>イ 解決が求められる現代の諸課題について、よりよい社会の実現が主体的に考えられるよう、歴史学習の終わりには「歴史との対話」を「未来に活かす」が設けられている。(P298-305)</p>
その他	今日の教育的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「歴史を掘り下げる」では、北方領土、竹島、尖閣諸島問題が扱われている。(P292-293)</p> <p>イ 「出かけよう地域調べ」では、大阪空襲が取り上げられている。(P256-257)</p> <p>ウ 「琉球の文化」「アイヌの文化」が取り上げられている。(P92-93、P132-133)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 227	略称 育鵬社	書名 [最新]新しい日本の歴史
-----	-----	-----------	--------	-----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 時代ごとの長さや位置関係がわかるよう、各章のはじめに「歴史モノサシ」(100年 = 1cm) が提示されている。(P19、P69、P103等)</p> <p>イ 単元で学習した内容を自分で整理しまとめられるよう、各章末には「学習のまとめ」が設けられている。(P66-67、P100-101、P152-153等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「このころの世界は」では、各時代の日本の歴史とかかわりの深い外国の動きについて解説されている。(P38、P84、P110等)</p> <p>イ 様々な資料をもとに深い学びができるよう、「歴史のターニングポイント」が設けられている。(P64、P98、P150等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章冒頭に「鳥の目」で歴史の流れを大観する「歴史絵巻」と虫の目で時代の特色をつかむ「 の世界へようこそ!」が設定されている。</p> <p>イ 巻末に日本の歴史を大観するため、日本の歴史のまとめとし、日本の歴史を400字の文章で表現する単元が設定されている。(P292-293)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 序章により、小学校での学習内容(おもな出来事・人物)が復習できるよう工夫されている。(P8-11)</p> <p>イ 「地域の歴史を調べてみよう」 では、大阪・横浜を題材として、探究調査の方法が説明されている。(P13-18、P156-159)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「歴史ビュー」では、本文の内容にかかる事項について多角的な視点から解説されている。(P35、P37、P47等)</p> <p>イ 「三種の神器」「伊勢神宮」「国民とともに歩む天皇」等、神話・天皇について掲載されている。(P56-57、P282)</p> <p>ウ 各章のはじめに「海洋国家日本のあゆみ」を置き、各時代を象徴する船を取り上げ外国との関わりが示されている。(P19、P69、P103等)</p> <p>エ 「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」では、生徒が学芸員になったつもりで展示方法を考えることで知識を深め活用する工夫がされている。(P65、P99、P101)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「歴史ズームイン」では、北方領土、尖閣諸島、竹島について、歴史的資料が取り上げられている。(P266-267)</p> <p>イ 各章の最終ページに「なでしこ日本史」が設定され、その時代の象徴的な女性について説明されている。(P68、P102、P154等)</p> <p>ウ 「歴史ズームイン」では、日本で過去に起こった震災についての年表や石碑の写真が掲載されている。(P284-285)</p>

社 会	歴 史	発行者番号 229	略称 学び舎	書名 ともに学ぶ人間の歴史
-----	-----	-----------	--------	---------------

項目		特徴
学 習 方 法 工 夫 に つ い て	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基礎的な知識の定着が図れるよう、各章に「〇〇をふりかえる」のページが設定されている。(P34、P52、P84-85等)</p> <p>イ 難しい用語が、同ページで説明されている。(P13、P19、P20等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 生活の中で歴史が体感できるよう、「歴史を体験する」「実験」などのコーナーが設けられている。(P34-35、P104-105、P158-159等)</p> <p>イ スリーヒントクイズやゲームなどで学習内容を振り返らせ、意見交換などができるよう、各部ごとに「学習のまとめ」のページが設けられている。(P52-53、P84-85、P134-135等)</p> <p>ウ 深く歴史を学ぶことができるよう、ページ下には「コラム」が設けられている。(P5、P13、P15等)</p>
内 容 構 成 の ・ 配 列 に つ い て	単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各章のはじめのページでは、課題意識が持てるよう、世界地図を中心に、その時代に関する写真や絵(学習課題)が示されている。(P10-11、P36-37、P54-55等)</p> <p>イ 巻末年表の時代区分が「本州」「北海道」「沖縄」の地域ごとに示されている。(P282-293)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 時代が明確になるよう、本文はじめに「フォーカス」が設けられている。(P30、P56、P58等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 多面的に考えることができるよう、蒙古襲来や日清・日露戦争など、日本と相手国の両方の目線で記述されている。(P68-69、P184-185)</p> <p>イ 東アジア(中国・朝鮮半島)などの近隣諸国について具体的に記載されている。(P56、P68、P72等)</p> <p>ウ 人(民衆)を軸として歴史を見る構成になっている。(P150-157、P198-207)</p>
そ の 他	今日的な教育課題との関わり等	<p>ア 領土問題について、尖閣諸島・竹島・北方領土問題が簡潔に書かれている。(P185、P189、P257)</p> <p>イ 戦争の現実を知り、平和についての考えが深められるよう、体験者の証言やエピソードなどが記載されている。(P240、P241)</p>



公民

社 会	公 民	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい社会 公民
-----	-----	---------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「学習課題」が設定されている。</p> <p>イ 基礎・基本の定着が図れるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「チェック」、各単元の終結部に「基礎・基本のまとめ」が設定されている。</p> <p>ウ 資料活用の技能が身に付けられるよう、「集める」「読み取る」「まとめる」のマークで資料を活用した課題が示されている。（P17、P18、P23等）</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ウェブページのデジタル資料によって、インターネットを使った学習ができるよう、二次元コードが示されている。（P5、P16、P36等）</p> <p>イ 「社会的な見方・考え方」が身に付けられるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「トライ」が設定されている。</p> <p>ウ 「もっと公民」では、地理的分野や歴史的分野との関連付けや資料の読み取りなどが提示されている。（P16、P36、P72-73等）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各章の「導入の活動」の中では、見通しをもって学習が進められるよう、単元全体の「探究課題」と「探究のステップ」が示され、それに対応した「まとめの活動」が章末に設定されている。（P38-39、P76-77等）</p> <p>イ 日本国憲法を学習する章では、人権と憲法との関連を軸にして学ぶことができるよう単元が構成されている。（P37-74）</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 系統的な学びが実現できるよう、2章以降の章のはじめに「小学校の社会で習ったことば」が示されている。（P37、P75、P127等）</p> <p>イ 様々な見方で学習内容を捉えることができるよう、欄外の「教科関連マーク」・「分野関連マーク」で他教科・他分野との関連が示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章では、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題が設定され、探究した結果をアクションプランとしてまとめる単元が設けられている。（P213-218）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「持続可能な社会」をキーワードにして継続的に学習できるよう、持続可能な社会の実現に向けた5つの視点が「公民にアクセス」と「もっと公民」の中に記号で示されている。（P8、P14、P16等）</p> <p>イ 「18歳へのステップ」では、主権者教育や消費者教育について学習できる工夫がされている。（P88-89、P136-137）</p> <p>ウ 防災について学習できるよう、「もっと公民」で「東日本大震災からの復興と防災」というテーマが見開き2頁で取り上げられている。（P124-125）</p>

社 会	公 民	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学社会 公民 ともに生きる
-----	-----	----------	-------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 課題意識をもって学習に取り組めるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「学習課題」が設定されている。</p> <p>イ 基礎・基本の定着が図れるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「確認」、各単元の終結部に「学習のまとめと表現」が設定されている。</p> <p>ウ 資料を活用して課題が考察できるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「LOOK!」の解説文が掲載されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ウェブページのデジタル資料によって、自主的・自発的な学習ができるよう、「まなびリンク」が示されている。（P11、P37、P81等）</p> <p>イ 学習に対する興味・関心を高めたり、学習内容を深めたりできるよう、「公民の窓」や「クリップ」の学習コラムが掲載されている。（P27、P43等）</p> <p>ウ 「読んで深く考えよう」や「言葉で伝え合おう」のテーマ学習が特設ページで設定されている。（P24-25、P52-53、P68-69等）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 見通しをもって学習が進められるよう、各章の「学習のはじめに」では「学習の見通し」が示されている。（P12-13、P38-39、P82-83等）</p> <p>イ 第2章「個人を尊重する日本国憲法」では、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義について、それぞれ1節ずつ取り扱われている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 系統的・横断的な学習ができるよう、欄外に小学校や他分野、他教科との関連や関連するSDGsが表示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章では、SDGsと関連させて持続可能な社会を築くための課題とその解決について、自らの提案を作成し、対話を通じて考えを深める単元が設定されている。（P227-234）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 領土問題について、テーマ学習「日本の外交の今とこれから」において現状と課題などが取り上げられている。（P196-199）</p> <p>イ 「言葉で伝え合おう」では、起業計画や起業体験等について学習できるよう、「起業にチャレンジしてみよう」というテーマが見開き2頁で取り上げられている。（P146-147）</p> <p>ウ 第5章1節「身のまわりの社会保障制度」では、社会保障制度について、10頁で取り上げられている。（P170-179）</p> <p>エ SDGsを公民の学習と関連づけられるように、巻頭で紹介されている。（巻頭Ⅰ - ）</p>

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習の見通しが持てるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「学習課題」が設定されている。</p> <p>イ 基礎・基本の定着が図れるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「確認しよう」「説明しよう」、各単元の終結部に「章の学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p>ウ 興味・関心が高められるよう、「学習の前に」では、部や章で学習する内容について、イラストで身近な場面と結び付けて示されている。（P1-2、P27-28、P65-66等）</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ICT機器等が活用できるよう、二次元コードが掲載されている。（P1、P3、P13等）</p> <p>イ 「公民プラス」では、自発的な学びが促せるよう、実社会の動きと関連するテーマが扱われている。（P4、P10、P20等）</p> <p>ウ 「学習の前に」では、生活と学習内容の関連を意識させて学習意欲を高められるよう、「やってみよう」で作業学習が設定されている。（P1-2、P27-28、P65-66等）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各章の「学習の前に」では、見通しをもって学習が進められるよう、「<input type="text"/>を見直そう」で単元全体の学習内容が示されている。（P1-2、P27-28、P65-66等）</p> <p>イ 憲法と政治のつながりが理解しやすいよう、「日本国憲法」と「民主政治」が「第2部政治」の部でまとめられている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 各章の「学習の前に」では、系統的な学びが実現できるよう、「小学校との関連」が示されている。（P2、P28、P66等）</p> <p>イ 系統的・横断的な学習ができるよう、欄外に小学校や他分野との関連が示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章では、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題が設定され、探究した結果をレポートとしてまとめる単元が設定され推敲に工夫がされている。（P203-210）</p> <p>イ 「先輩たちの選択」では、学習内容を実社会で生かし、関連した取り組みを行っている人がインタビューで紹介されている。（P13-14、P85-86、P104等）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 政治参加における選挙の意義について、世代別の投票率の変化のグラフを使いながら、2頁で取り上げられている。（P99-100）</p> <p>イ 「技能をみがく」では、契約・ライフプラン・企業の企画書といった実生活で役立つテーマが取り上げられている。（P123-124、P133-134、P144）</p>

社 会	公 民	発行者番号 116	略称 日文	書名 中学社会 公民的分野
-----	-----	-----------	-------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「学習課題」と「見方・考え方」が設定されている。</p> <p>イ 基礎・基本の定着が図れるよう、1単位時間の学習毎に「確認」、各単元の終結部に「学習の整理と活用」が設定されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア ウェブページのデジタル資料によって、自主的・自発的な学習ができるよう、「デジタルマーク」が示されている。（P11、P42、P47等）</p> <p>イ 「アクティビティ」や「深めよう」では、「見方・考え方」を働かせて取り組む発展的な課題が示されている。（P9、P11、P13等）</p> <p>ウ 「シンキングツールを使ってみよう」では、課題について考える手助けとなるチャートや表などが紹介されている。（P33、P77、P118等）</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各編の「学習の始めに」では、見通しをもって学習が進められるよう、単元全体の学習課題と学習内容が示されている。（P6-7、P33-34、P122-123）</p> <p>イ 第2編第1章「個人の尊重と日本国憲法」では、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義について、それぞれ1節ずつ取り扱われている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 既習事項をいかすことができるよう、欄外に小学校や他分野で学習した内容が示されている。</p> <p>イ 巻末では、中学校での学習内容をどのようにいかしていくかの見通しがもてるよう、高等学校の「公共」とのつながりが示されている。（巻末後）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 第5編「私たちの課題」では、中学校社会科の最後の課題として「持続可能な社会をめざして」をテーマとしてレポート作成からプレゼンテーションまでの一連の活動ができる工夫がされている。（P212-220）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 防災について学習できるよう、「明日に向かって」では、「災害に強いくらしをきずく」というテーマのコラムが見開き2頁で掲載されている。（P96-97）</p> <p>イ 領土問題について、1単位時間の学習（見開き2頁）に「日本の領土をめぐる問題」が設定されるとともに、世界の領土問題についても情勢が記載されている。（P184-185）</p> <p>ウ 「まちのバリアフリーを探そう」というテーマの中で、実際の点字が記載されている。（P50-51）</p>

社 会	公 民	発行者番号 225	略称 自由社	書名 新しい公民教科書
-----	-----	-----------	--------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 課題意識をもって学習に取り組めるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に、学習課題が設定されている。</p> <p>イ 各単元での学習内容の基礎・基本の定着が図れるよう、1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「ここがポイント」が示され、各章の終結部の「学習のまとめ」では、学習した内容の重要語句が示されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 重要語句などについて、本文中に注番号が付され、欄外に説明が記載されている。</p> <p>イ 「やってみよう」では、学習した内容を個やグループで深めるための問いかけがされている。（P4、P6、P11等）</p> <p>ウ 章末では、個に応じた学習ができるよう、「学習の発展」として複数の課題から1つ選び、 字でまとめるという学習が設定されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 第5章第3節「世界と日本の安全保障」では、国際社会について学習する単元において、日本の安全保障について時事的な内容をふまえた単元構成になっている。（P188-199）</p> <p>イ 日本の文化や精神、天皇制等について学習するような単元構成になっている。（P14-15、P68-69等）</p> <p>ウ 第3章第1節「日本国憲法の国家像」で日本国憲法を学習するよう構成されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 学習内容に関係する人物が取り上げられ、紹介されている。（P16、P31、P32等）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章では、「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるか」をテーマに、卒業論文やディベート等で学習する工夫がされている。（P207-224）</p> <p>イ 愛国心や愛郷心を育むための学習内容が記載されている。（P30-31）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「もっと知りたい」の頁では、年金制度のしくみや拉致問題について学ぶことができる工夫がされている。（P154-155、P190-191）</p> <p>イ 憲法改正の手続きと論点について考える工夫がされている。（P62-63）</p>

社 会	公 民	発行者番号 227	略称 育鵬社	書名 [最新]新しいみんなの公民
-----	-----	-----------	--------	------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1単位時間の学習（見開き2頁）毎に「課題」が設定され、学習事項が具体的に示されている。</p> <p>イ 学習内容の理解の確認や学習内容を深める課題が1単位時間の学習（見開き2頁）毎に 鉛筆のマークで示され、また章末に「学習のまとめ」が設定されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「TRY!」では、示された課題について調べたり、討論したりする工夫がされている。（P11、P15、P19等）</p> <p>イ 章末の「学習のまとめ」では、個に応じた学習ができるよう、学習した内容を使って、自分の考えを説明する等の課題が設定されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各章の「 の入り口」の中では、見通しをもって学習が進められるよう、単元をつらぬく課題が示されている。（P8-9、P36-37、P76-77等）</p> <p>イ 天皇の役割が、各単元と関連付けて取り上げられている。（P14-15、P43、P88、P197）</p> <p>ウ 日本国憲法を学習する第2章は「日本国憲法の基本原則」と「基本的人権の尊重」の2節で構成されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 系統的な学びが実現できるよう、各章のはじめに小学校で学習した語句やそれに関連する写真等が示されている。</p> <p>イ 巻頭では、「地理・歴史・公民の概念図」が示され、公民的分野の学習の意義について説明されている。（巻頭 ）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 終章「社会科のまとめ」では、中学校社会科の最後の課題として「持続可能な社会をめざして」をテーマとしてレポート作成からプレゼンテーションまでの一連の活動ができる工夫されている。（P203-209）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 北方領土や竹島、尖閣諸島の現状について、1単位時間の学習に加えて、特設2頁で取り上げられている。（P186-189）</p> <p>イ 「学習を深めよう」では、防災学習や拉致問題が見開き2頁で掲載されている。（P14-15、P184-185）</p>

地图



社 会	地 図	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい社会 地図
-----	-----	---------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基礎的・基本的な知識が習得しやすいよう、世界の各州・日本の各地方には、地域の概観に役立つ自然・産業・人口などの「基本資料」が設けられている。(P31-32、P55、P63、P71、P77等)</p> <p>イ 地域の特徴が捉えやすいよう、世界の一般図では、地域の特徴的な事象が「注目したい記号」として示されている。(P29-30、P33、P35等)</p> <p>ウ 日本との結び付きが強いアジア、ヨーロッパ、北アメリカ州では、海底の様子を含めた地形がイメージしやすい鳥瞰図が掲載されている。(P31-32、P49-50、P73-74等)</p> <p>エ 巻末「日本の周辺」では、領域への理解が深められるよう、東西南北端や排他的経済水域、領土問題の説明等が掲載されている。(P190-191)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 世界の各州、日本の各地方の「テーマ資料」では、探究課題の考察を通して理解が深められるよう、探究課題に沿った学習に活用できる資料が取り上げられている。(P36-38、P43-44、P64-65等)</p> <p>イ 読み取る力を高められるよう、資料のポイントや「見方・考え方」を示したキャラクターのふき出しが設けられている。(P8、P12等)</p> <p>ウ 検索性が高められるよう、「資料さくいん」では、気候や地形などの分類ごとに資料の種類やページが掲載されている。(P186)</p> <p>エ ICT機器を活用することで学習効果が高まるよう、「Dマークコンテンツ」が掲載されている。(P7、P34、P90等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 授業での活用度を高めるため、大きく世界と日本に分け、「全体の資料 一般図と資料 統計資料」の順で配列されている。</p> <p>イ 地球の姿が捉えやすいよう、世界の一般図では、大きく大陸や海岸をおさえる縦の地図が掲載されている。(P29-30、P61-62、P67-68)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 地域的なつながりを重視し、歴史、公民の学習でも活用できるよう、歴史的な結び付きが強いヨーロッパとアフリカが同じ一般図に掲載されている。(P45-46、P61-62)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 歴史や公民の授業での活用度を高め、三分野の連携が強められるよう、特設ページが設けられている。(P39-40、P95-96、P131-132等)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 課題解決に向けた態度を養えるよう、持続可能な開発目標(SDGs)の17のゴールの一覧が掲載されている。(P7-8)</p> <p>イ 東日本大震災など自然災害の被害を示した資料やハザードマップなど、防災・安全に関する資料が掲載されている。(P134、P151-152)</p> <p>ウ 現代社会的な視点と歴史的な視点から平和学習を展開できるよう、世界の紛争や難民問題についての資料や、第二次世界大戦に関する資料が掲載されている。(P13-14、P94-96、P104)</p>

社 会	地 図	発行者番号 46	略称 帝国	書名 中学校社会科地図
-----	-----	----------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 開いているページの地域が、世界や日本の中のどのあたりに位置するかが一目でわかるよう、位置図が掲載されている。(P24、P29、P31等)</p> <p>イ 世界地図には、世界の国々と日本の面積や緯度、経度による位置関係の比較ができるよう、同緯度・同経度・同縮尺の日本地図が掲載されている。(P41、P57-58、P60等)</p> <p>ウ 日本の一般図の記載要素のうち、産物や環境に関するもの、各地方の伝統文化に関するもの等が絵記号で示されている。(P83-84、P85-86、P89-90等)</p> <p>エ 実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身に付けられるページが設けられている。(P8)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 地図の読み取り等の地理的技能が身に付き「社会的な見方・考え方」を働かせた学習に活用できる「地図活用」が設置されている。(P8-10等)</p> <p>イ 資料活用力を高められるよう、衛星画像、基礎主題図等のコンテンツが収録される「二次元コード」が設定されている。(P5-6、P8等)</p> <p>ウ 巻頭、巻末の資料図では、紙面のタイトルの横に「学習課題」が設けられ、そのページで扱うテーマを追究する際の着眼点が示されている。(P13-18、P145-164)</p> <p>エ 数値的に地域の特色や差異を捉えやすいよう、巻末の日本の統計資料が地方別、項目別に色分けされ、上位県の数値が赤で示されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 世界全体(地形、気候等)、世界の州、日本の地方、日本全体(地形、気候等)、統計資料という順で構成されている。</p> <p>イ 地域の特色を視覚的に捉えられるよう世界の州ごとに自然環境や生活・文化、産業等のイラストを配した鳥瞰図が掲載されている。(P25-26、P49-50、P61-62等)</p> <p>ウ 世界の州は「一般図」「鳥瞰図」「資料図」、日本の地方は「一般図(地方別 拡大)」「資料図」という配列で構成され、それぞれの特色が具体的に読み取れる資料が掲載されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 北方領土問題の歴史的な背景を学習するため、国境の変遷が地図で示されている。(P142)</p> <p>イ 世界の州の資料では、日本との経済的な結びつきに関する資料が掲載されている。(P28、P31、P36)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 歴史の舞台が確認できるよう、一般図に示された「重要な歴史地名・事項」「おもな歴史地名・事項」が掲載されている。(P23-24、P29-30、P33-34等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 環境問題や持続可能な開発目標(SDGs)の観点に基づいた資料が多く掲載されている。(P13-14、P43、P70)</p> <p>イ 日本の各地域資料図には、「防災」マークが付いた資料図が掲載され、防災・減災の視点が取り上げられている。(P108、P115、P130等)</p>

# 数学

数 学	数 学	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい数学
-----	-----	---------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「問」では、「例」の内容が確実に理解できるよう、「例」と似た型の問題に印がつけられている。(1年P50等)</p> <p>イ 節ごとに知識や技能の確認、習得が図れるよう、節末に「基本の問題」が設けられている。(1年P26等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「章の問題」では、Aは理解を確認する問題、Bは応用的な問題とし、習熟度に応じた構成になっている。(1年P86-88等)</p> <p>イ 「章とびら」では、自主的に学習に取り組めるよう、日常生活の場面が1コマのイラストと「問いかけ」で提示されている。(1年P61)</p> <p>ウ 「深い学び」では、主体的な課題発見や解決の過程が重視された問題設定になっている。(1年P55-56等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1年最初の「0章算数から数学へ」の中に素因数分解が位置付けられている。(1年P9)</p> <p>イ 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「指数」「除法」の順になっている。(1年P39)</p> <p>ウ 平面図形では、「移動」「作図」「円・おうぎ形」の順になっている。(1年P154)</p> <p>エ 二次方程式の解き方では、「平方根の考えを使った解き方」「解の公式」「因数分解を使った解き方」の順になっている。(3年P74)</p> <p>オ 三角形の相似条件の後に「縮図の利用」の内容が扱われている。(3年P139)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 偶数の表し方を1年の文字式の利用で学習している。(1年P83)</p> <p>イ 作図では、「垂線」と「垂直二等分線」の作図が2つの円の共通弦の性質を用いて説明され、「角の二等分線」が線対称な図形の性質を用いて説明されている。(1年P165)</p> <p>ウ 一次関数の利用では、節の中に事象を「一次関数とみなす」という表現があり、数学的な見方について説明されている。(2年P85)</p> <p>エ 2年の図形の導入では、用語等の知識を与える学習ではなく、四角形・五角形等の多角形の内角の和を考える学習から始められている。(2年P98)</p> <p>オ 各学年共通して節が進むごとに前節の問いが深められる構成になっている。(1年P62、P73、P81等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 活動の楽しさを味わいながら、発表のしかたや聞き方、ノートづくり方などの「学び方」が身に付けられるよう、「0章算数から数学へ」が設定されている。(1年P9-16)</p> <p>イ 「データの比較」では、統計的問題解決力が高められるよう、身近な場面の問題解決を通してその方法を理解し、社会とのつながりを知る機会が設けられている。(2年P177-192)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 教科横断的な学習の参考になるよう、他教科と関連のある題材に「教科関連マーク」が示されている。(1年P60等)</p> <p>イ 「深い学び」のページなどで、日常生活や社会の事象に関わる問題発見・解決の過程を重視した活動が設定されている。(1年P145-146等)</p>

数 学	数 学	発行者番号 4	略称 大日本	書名 数学の世界
-----	-----	---------	--------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 例と同じように取り組む「たしかめ」、「Q」を補充する「プラス・ワン」、節末の「たしかめよう」など繰り返しの機会が設けられている。(1年P31、P40等)</p> <p>イ 系統性が理解できるよう、側注「思い出そう」に既習内容が記載され、巻末に前学年までの復習が設けられている。(2年P42、P214-217等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 導入課題「考えよう」では、見通しを持ち取り組めるよう、取り組んだことをもとに、「めあて」が設定されている。(1年P22等)</p> <p>イ 学習したことを活用し、数学の有用性が感じられるよう、すべての章に「利用」の活動が設けられている。(1年P59-61等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 正の数・負の数は、「1章数の見方」の2節で扱われ、1節で素因数分解・指数が扱われている。(1年P12)</p> <p>イ 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「累乗」「除法」の順になっている。(1年P42)</p> <p>ウ 平面図形では、「円・おうぎ形」「作図」「移動」の順になっている。(1年P172)</p> <p>エ 2年では「6章データの比較と箱ひげ図」「7章確率」の順になっている。(2年P169)</p> <p>オ 二次方程式の解き方では、「因数分解による解き方」「平方根の考えを使った解き方」「解の公式」の順になっている。(3年P80)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 正負の数の乗法では、かける数を1ずつ小さくするときの積の変化の考え方から説明されている。(1年P42)</p> <p>イ 作図では、「垂直二等分線」は2点からの等距離にある点の集合、「角の二等分線」は2直線から等距離にある点の集合であるという概念を用いて説明されている。(1年P180)</p> <p>ウ 「4章平行と合同」では、合同な図形の性質を利用して測れない場所の長さを求める問いが設定されている。(2年P128)</p> <p>エ 相似な図形では、「三角形の角の二等分線と比」の定理を導くための図が用意されている。(3年P158)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 各章の学習内容の活用場面では、見いだした問題の解決のしかたが身につくよう、問題発見・問題解決の流れが示されている。(1年P156-157等)</p> <p>イ 「データの利用」では、統計的な解決の方法であるPPDACサイクルに沿って、数学的活動に取り組めるようになっている。(1年P256-257)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 関連する教科がマークで示され、他教科の学習とつながる課題が取り上げられている。(1年P59等)</p> <p>イ 課題を見つけ、学んだ数学を生かして問題を解決する課題学習や、次学年や高等学校で学習する内容につなげる発展的な学習が章末や巻末に設けられている。(1年P266、P189等)</p>

数 学	数 学	発行者番号 11	略称 学図	書名 中学校数学
-----	-----	----------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 章末には、その章でできるようになったことがチェックできるよう、「章を学んで」が設けられている。(1年P64等)</p> <p>イ 「数と式」の領域では、側注に「やってみよう」が設けられ、「計算力を高めよう」への関連ページが示されている。(1年P33、P35等)</p> <p>ウ 「例の解答」では、模範的な書き方だけでなく留意点などが加えられ、ノート形式で丁寧に示されている。(1年P108等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 章末の「まとめの問題」では、習熟度に応じて取り組めるよう、基本・応用・活用のページが設けられている。(1年P61-63等)</p> <p>イ 「おしえて！」の間に対して「Tea Break」で発展的な内容にふれながら答え、興味を持って取り組めるようになっている。(1年P109-110等)</p> <p>ウ 数学を学ぶよさが理解できるよう、日常や社会の問題、教科横断的な内容が取り上げられている。(1年P184、3年P178)</p> <p>エ QRコードが関係ページに直接表示されている。(1年P208等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「累乗」「除法」の順になっている。(1年P36)</p> <p>イ 平面図形では、「作図」「円」「移動」の順になり、「おうぎ形」は空間図形の中の「立体の展開図」で扱われている。(1年P166、P210)</p> <p>ウ 2年では「6章確率」「7章データの分布」の順になっている。(2年P178)</p> <p>エ 二次方程式の解き方では、「因数分解を使った解き方」「平方根の考えを使った解き方」「解の公式」の順になっている。(3年P76)</p> <p>オ 「誤差・有効数字」は相似の利用で扱われている。(3年P153)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「不等式」の内容が、「文字の式」ではなく「方程式」の単元の中で扱われている。(1年P96)</p> <p>イ 比例・反比例の利用では、日常の生活での様々な事象が扱われている。(1年P152)</p> <p>ウ 「作図の利用」では、平行線の作図の仕方から「平行線と面積」へとつながられている。(1年P174)</p> <p>エ 連立方程式の利用では、割合の内容で「食塩水濃度」が扱われている。(2年P62)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「正の数・負の数の加法・減法」では、カードゲームを通して負の数をたすこと、ひくことが導入されている。(1年P21-26)</p> <p>イ 「図形の性質の調べ方」では、星形五角形のいろいろな角の大きさを実際に測ることで角の性質や共通点が見つけれられるよう工夫している。(2年P108-109)</p>
その他	<p>ア 「役立つ数学」では、学習意欲の向上が図られるよう、これまで学んだ数学がどんなところで役立っているかがコラムで紹介されている。(1年P192等)</p> <p>イ 巻末「今の自分を知ろう」では、自分たちの生活に役立てられるよう、SDGsが取り上げられている。(1年P264-265)</p>	

数 学	数 学	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学数学
-----	-----	----------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学年間の接続が工夫され、「○章を学習する前に」や「もどって確認」などで既習内容を振り返ることができるようになっている。(1年P12、P51等)</p> <p>イ 図形の証明では、キャラクターの対話場面を通して、確実な理解が図れるよう、図に仮定や結論の記号が書き込まれている。(2年P128、3年P145等)</p> <p>ウ 3年の「図形のまとめ」では、内容の確実な定着が図れるよう、中学1～3年で学習した図形の重要な事項が系統的にまとめられている。(3年巻末)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学習のプロセスを体験するページ」では、課題意識をもって取り組みながら、数や図形の性質を見いだしたり、筋道を立て説明し合ったりする活動が設けられている。(1年P121-123、3年P212-213等)</p> <p>イ 他者の考えを説明し、よりよい解決方法を見つけようとする態度が養えるよう、複数の考え方が取り上げられている。(1年P92、2年P28等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1章「整数の性質」では、素数・素因数分解が扱われている。(1年P13)</p> <p>イ 平面図形では、「円」「作図」「移動」の順になっている。(1年P174)</p> <p>ウ 球の表面積と体積が単独の節としてではなく、「立体の体積」と「立体の表面積」の節の中にそれぞれ球の場合として取り上げられている。(1年P229)</p> <p>エ 2年では、「6章確率」「7章データの分析」の順になっている。(2年P181)</p> <p>オ 二次方程式の解き方では、「因数分解による解き方」「平方根の考えを使った解き方」「解の公式」の順になっている。(3年P84)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 作図では、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」が線対称な図形の性質を利用して説明されている。(1年P177)</p> <p>イ 作図では、基本の作図以外に75°の角の作図が「作図の利用」で取り上げられている。(1年P183)</p> <p>ウ 「三角形の角の二等分線と線分の比」の定理が補助線の引き方を考えさせることで、説明されている。(3年P154)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 章の学習の準備として問題形式で既習内容の確認ができるようになっている。(1年P22等)</p> <p>イ 章のとびらでは、学習の必要性や数学の有用性が感じられるよう、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題が扱われている。(1年P69等)</p> <p>ウ 章末問題の前に「学習のまとめ」として振り返る場面が設定されている。(1年P63)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「数学の広場」では、学習を深めたり広げたりする話題や、職業における数学の活用について取り上げられている。(1年P20、P278等)</p> <p>イ 身近な課題から数学的な考え方を働かせて解決させようとする工夫がされている。(1年P159)</p>

数 学	数 学	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 未来へひろがる数学
-----	-----	----------	--------	--------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「問」と同程度の難易度で、反復により基礎的な知識・技能の定着が図れる問題が「もっと練習しよう」で取り上げられている。(1年P240 250等)</p> <p>イ 方程式を利用する「例題」では、「考え方」を穴埋め形式にしたり、表や図をそえたりして、文章を読み解けているかが確認できるようになっている。(1年P104、2年P51等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 教科書の解き方と別の方法を考えたり教科書の問題から発展的に考えたりする視点を示す「？」が配置されている。(1年P103等)</p> <p>イ 「自分から学ぼう編」の先頭に、学びの記録を残すことができるセルフチェックシート「学びのあしあと」が設けられている。</p> <p>ウ 章末問題では、基礎・基本の定着を確かめる「学びをたしかめよう」と応用力を養う「学びを身につけよう」の問題設定がされている。(1年P52-55等)</p> <p>エ QRコードが関係ページに直接表示されている。(1年P111等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 素因数分解が、正負の数の「数の世界の広がり」の中に配置されている。(1年P46)</p> <p>イ 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「除法」「指数」の順になっている。(1年P31)</p> <p>ウ 「文字式の利用」について、「関係を表す式」という項の中で扱われている。(1年P77)</p> <p>エ 平面図形では、「移動」「作図」「円・おうぎ形」の順になっている。(1年P153)</p> <p>オ 2年では、「6章場合の数と確率」「7章箱ひげ図とデータの活用」の順になっている。(2年P158)</p> <p>カ 二次方程式の解き方では、「平方根の意味にもとづく解き方」「解の公式」「因数分解を使った解き方」の順になっている。(3年P68)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 正負の数の減法では、数直線を使わずに言葉の意味から加法に変換されている。(1年P26)</p> <p>イ 正負の数の乗法では、かける数を1ずつ小さくするときの積の変化の考え方から説明されている。(1年P31-32)</p> <p>ウ 作図では、「垂直二等分線」と「垂線」はひし形の性質が利用され、「角の二等分線」は線対称な図形の性質が利用されている。(1年P160)</p> <p>エ 平行四辺形では、対辺・対角ではなく、「向かい合う」という表現がされている。(2年P139)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「みんなで学ぼう編」「自分から学ぼう編」の2部構成となっており、「自分から学ぼう編」は裏表紙を先頭にして上開きの紙面構成となっている。</p> <p>イ 「データの活用」では、疑問を元に実験を取り入れた学習を進め、データの活用、処理の能力が身につく展開になっている。(1年P214-239)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 身のまわりの場面から問題を見だし、その問題を解決し、さらに問題をひろげたり深めたりできるよう、「利用場面」が多くの章の最終節や項に設定されている。(1年P49-51等)</p> <p>イ 「自分から学ぼう編」の「学びをいかそう」では、これまでに学んだ内容とプログラミング的思考を融合した課題が取り上げられている。(1年P51-52)</p>



数 学	数 学	発行者番号 104	略称 数研	書名 日々の学びに数学的な見方・考え方を はたらかせる これからの 数学
-----	-----	-----------	-------	---

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基本的な計算が習得できるよう、「問」「確認問題」「章末問題AB」「チャレンジ編」に分けられ、十分な問題量が設けられている。(1年P37、P60、P261)</p> <p>イ 章はじめの「ふりかえり」では、関連する既習事項を振り返ることができるようになっている。(2年P14、P24等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学びの見通しを立てたり学んだことを振り返ったりできるよう、項目はじめに学習目標が記載されている。(1年P19等)</p> <p>イ キャラクターが学びのガイド役となり、考え方のヒントが提示されている。(1年P115等)</p> <p>ウ 数学の有用性が感じられるよう学んだ内容を活用して解決する「TRY」が設けられている。(1年P148、2年P34等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 素因数分解は、正負の数の「いろいろな計算」の中に配置されている。(1年P54)</p> <p>イ 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「指数」「除法」の順になっている。(1年P38)</p> <p>ウ 平面図形では、「移動」「作図」「円」の順になっている。(1年P162)</p> <p>エ おうぎ形は、「空間図形」で扱われている。(1年P211)</p> <p>オ 2年では、「6章データの活用」「7章確率」の順になっている。(2年P171)</p> <p>カ 二次方程式の解き方では、「因数分解による解き方」「平方根の考えを使った解き方」「解の公式」の順になっている。(3年P76)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 方程式では、「比例式」が活用の場面で扱われず、計算の技能のみの扱いになっている。(1年P110)</p> <p>イ 作図では、「垂直二等分線」はひし形の性質を利用して説明され、「角の二等分線」と「垂線」はたこ形の性質を利用し、説明されている。(1年P168)</p> <p>ウ おうぎ形の面積が、視覚的にわかりやすく説明されている。(1年P214)</p> <p>エ <math>y = ax^2</math>の関数では、放物線と直線の交点の問題が例題として扱われている。(3年P122)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 学習状況に合わせて時期や分量を自由に決めて取り扱うことができるよう、別冊が用意されている。(1年別冊P8-11等)</p> <p>イ 紙面上で授業の流れがわかるよう、数学的な見方・考え方をはたらかせながら解決に向かう姿が対話形式で掲載されている。(1年本冊P31等)</p>
その他	<p>ア 地球環境などの諸問題について、数学を学びながら自然な形で触れられるよう工夫されている。(1年P258-259等)</p> <p>イ Linkアイコンで全国学力・学習状況調査問題とつながり、効果的な学習を行うことができるようになっている。(2年P161等)</p>	

数 学	数 学	発行者番号 116	略称 日文	書名 中学数学
-----	-----	-----------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 数学的な表現力が段階的に身に付くよう、説明の初期段階では、埋め形式で説明を完成させる問が設けられている。(1年P214等)</p> <p>イ 間違いの注意喚起をするため、「誤答に注意!」とかかれた吹き出しや「まちがいの例」が設けられている。(2年P43,1年P111等)</p> <p>ウ 初出の数学用語の使い方が理解できるよう、表現の具体例が「表現の例」として示されている。(1年P126等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 節末には「基本の問題」、章末には基礎・基本から標準的な問題までの「章の問題」と、やや難易度の高い問題の「とりくんでみよう」が設けられている。(1年P22、P60、P61)</p> <p>イ 「大切な見方・考え方」では、その場面で必要な「数学的な見方・考え方」が具体的に示され、それを生かしながら活動へ取り組めるようになっている。(1年P45等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 素因数分解が、正負の数の中に配置されている。(1年 P54～)</p> <p>イ 正負の数の乗法・除法では、「乗法」「除法」「指数」の順になっている。(1年 P40)</p> <p>ウ 2年では「6章 データの分布と確率」の中で、データの分布 確率の順になっている。(2年 P162)</p> <p>エ 二次方程式の解き方では、「因数分解による解き方」「平方根の考え方を使った解き方」の順になっている。(3年 P70)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 正負の数の乗法では、かける数を1ずつ小さくするときの積の変化の考え方から説明されている。(1年 P40)</p> <p>イ 作図では、「垂直二等分線」はひし形の性質が利用され、「角の二等分線」と「垂線」は線対称な図形の性質が利用され、説明されている。(1年 P179)</p> <p>ウ おうぎ形の面積が、視覚的にわかりやすく説明されている。(1年 P193)</p> <p>エ 一次関数の利用では、「みなして考えること」「表、グラフ、式の活用」「身近な数量のグラフ」「身の回りの問題」が細かく系統立てて設定されている。(2年 P84)</p> <p>オ <math>y = ax^2</math>の関数では、放物線と直線の交点の問題が例題として扱われている。(3年 P112)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻末の「対話シート」を使うことで、自分の考えをもとに話し合い、学習を振り返る活動がしやすくなっている。(1年P58-59等)</p> <p>イ 四分位範囲と箱ひげ図について、小学校で学んだ内容を学び直ししながら、その必要性や意味を理解できるよう工夫されている。(2年P164-166)</p>
その他	<p>ア 「数学のたんけん」や巻末の「数学を仕事に生かす」「暮らしと数学」では、生活や社会の中で数学が重要な役割を担っている事例が紹介されている。(1年P258等)</p> <p>イ 我が国の国土や文化に対する理解が深められるよう、素材が多く取り上げられている。(1年P124等)</p>	

理科

理 科	理 科	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい科学
-----	-----	---------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元ごとに主体となる色遣いを変えられている。(1年P16-71等)</p> <p>イ 「課題」として、定型的な記述で学習方法の型につなげている。(1年P30、2年P16等)</p> <p>ウ レポートの書き方の説明が詳しく示されている。(1年P32、3年P14等)</p> <p>エ 探究の過程が確認できるよう、学習内容における探究の過程が偶数ページの下部に書かれている。(1年P16、P20等)</p> <p>オ 実験後の考察の仕方や例が具体的に示されている。(1年P88-90、3年P19-20等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単元の最後に「学習内容の整理」「確かめと応用」「確かめと応用活用編」が設定されている。(1年P66、P68等)</p> <p>イ 自発的に発展的な学習に取り組むことができるよう、単元末の「科学の本だな」では、学習内容に関連した書籍が紹介されている。(1年P71等)</p> <p>ウ 理解度を高める工夫として、巻末にペーパークラフトが添えられている。(1年巻末等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 見通しを持って学習に取り組めるよう、単元のはじめに各章で学ぶ内容が一枚の絵の中にまとめられている。(1年P12、3年P10等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学習課題は書かれているが、結論やまとめは書かれておらず、生徒自身の言葉で表現するよう促されている。(1年P29、2年P31等)</p> <p>イ アの後、「活用」で学んだことを生かす場面が設定されている。(1年P29、2年P31等)</p> <p>ウ セキツイ動物の分類では、食べ物のちがいによるホニユウ類の体のつくりについて紹介されていない。(2年P150)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「問題発見」の活動で始まり、その活動から「課題」につなげていく流れになっている。(1年P16、2年P16等)</p> <p>イ 「Before&amp;After」で、同じ問いかけをすることで学習前と学習後の変容の確認を行う工夫がされている。(1年P13、P26、2年P15、P34等)</p> <p>ウ 「発展的な学習内容」には、共通の「発展」マークと学習する時期が示され、必修の学習内容と明確に区別されている。(1年P124、2年P77等)</p> <p>エ 1、2年の生物分野では、「特設ページ」が設けられ、生活との関わりやそれぞれの章で学習した内容を1つにまとめるなどの工夫がされている。(1年P62-63、2年P146-147等)</p>
	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「地震に備えるために」「火山とともにくらす」など、防災教育のタイトルが前向きな言葉で表現されている。(1年P210、P222)</p> <p>イ 3年終章「持続可能な社会をつくるために」が1つの章として取り上げられている。(3年P301)</p> <p>ウ 「世界につながる科学」では、持続可能な社会などにつなげられている。(2年P226、3年P311等)</p> <p>エ 理科室のきまりについて記述したページの中に「実験中に地震が起きたときは…」の記述がされている。(1年P8-9、P9)</p>
その他		

理 科	理 科	発行者番号 4	略称 大日本	書名 理科の世界
-----	-----	---------	--------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 例題、解答例、演習が示されている。(1年 P91、2年 P259 等)</p> <p>イ 「ことば」として、語句を印象づけて覚える工夫がされている。(1年 P37、3年 P114 等)</p> <p>ウ 観察と一致させられるよう、観察の後に結果の例が多く示されている。(1年 P24、2年 P242 等)</p> <p>エ 3年の巻末「学習のまとめ」では、3年間の学習内容を確認することができるよう、3学年分の学習内容の確認問題が設けられている。(3年 P338-351)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単位時間ごとに「思い出そう」という欄があり、既習事項が明確に示されている。(2年 P10、3年 P20 等)</p> <p>イ 「やってみよう」で個に応じて行うことができる発展的な課題が提示されている。(2年 P18、3年 P197 等)</p> <p>ウ 思考のヒント等が与えられるよう、キャラクターの吹き出しが多く記されている。(1年 P23、2年 P18 等)</p> <p>エ 「まとめ」では、学習内容がまとめられ、単元末には、思考力を要する読解力問題が設けられている。(1年 P188-192、2年 P74-78 等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 見通しをもって学習に取り組むことができるよう、単元の最初に「これまでに学習したこと」と「これから学習すること」が1ページにまとめられている。(3年 P8 等)</p> <p>イ 生態系が生物分野として扱われている。(3年 P136-163)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元末の「つながる×science press」では、生活や社会とつながりのある発展的な内容が取り扱われ、「つなぐ」というテーマで統一されている。(1年 P71、2年 P79 等)</p> <p>イ 随所に他教科とのつながりが書かれている。(1年 P161、2年 P182 等)</p> <p>ウ 2年「電流の正体」では、3ページにわたり放射性物質や放射線の性質、自然放射線や放射線を受ける量を減らす方法、放射線の医療・農業・工業分野での利用が紹介されている。(2年 P219-221)</p> <p>エ 天気の詳細は、単元末の「探究活動」が設定されている。(2年 P288)</p> <p>オ 細胞分裂の観察では、種子が根を出すところから「操作・方法」として示されている。(3年 P91)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 発展的な内容について学習内容との関連から考えが深められるよう、単元末に「探究活動」が設定されている。(1年 P64-65、2年 P72-73 等)</p> <p>イ 理科の学習と算数・数学との関わりがわかりやすくまとめられている。(1年 P284、2年 P308、3年 P358)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「理科室のきまり」に地震のときの注意について記述されている。(1年 P7、3年 P353 等)</p> <p>イ 「話し合おう」では、対話的な学びを意識させるよう工夫されている。(1年 P242、2年 P65 等)</p> <p>ウ 「行ってみよう! 科学館・博物館」や「ジオパークを見学してみよう!」、「生物を見に行こう!」では、本物に触れるための博物館や地形の場所や特徴が紹介されている。(1年 P278-281、P292-293 等)</p>

理 科	理 科	発行者番号 11	略称 学図	書名 中学校科学
-----	-----	----------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 時間ごとの課題とまとめが「この時間の課題」「この時間のまとめ」として、それぞれ具体的に記述されている。(1年 P37-38、2年 P25-29)</p> <p>イ 時間ごとの課題に対して「見方・考え方」が示されている。(1年 P23、2年 P29)</p> <p>ウ レポート、ノートの書き方が早い段階で説明されている。(1年 P24)</p> <p>エ 一つ一つの写真が大きく掲載されている。(1年 P44-45、2年 P80 等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 教科書の最初に「理科のトリセツ」として学ぶことや学び方について詳しく紹介され、「なぜ理科を学ぶの?」「探究の進め方」「授業を受けるコツ」「主体的・対話的に、深く学ぶ」が示されている。(1年 P1-17、2年 P1-13 等)</p> <p>イ 自分の変化や成長に気づくことができるよう、単元の最初に「学びのあしあと」として問いがあり、学習前後の答えを比べる工夫がされている。(1年 P19、2年 P15 等)</p> <p>ウ 単元末の「Can Do List 自己チェック」にはQRコードがつけられ、章のまとめや基礎問題が確認できよう、章の最初に「Can Do List」が設けられている。(1年 P22-59、2年 P16-68 等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全学年を通じて学習内容の区切りが明確になるよう、単元の内容はすべて3章で整理されている。(1年、2年 等)</p> <p>イ 1年「問題発見」、2年「しっかり仮説」、3年「しっかりふり返し」と学年ごとの探究の重点が見えるように示されている。(1年 P20、2年 33、3年 P17 等)</p> <p>ウ 生態系が生物分野として扱われている。(3年 P114-127)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 火成岩の比較の中で、再結晶の実験が取り入れられている。(1年 P205)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「サイエンスカフェ」では、学習内容の理解を深めるための話題が書かれている。(1年 P228、2年 P69 等)</p> <p>イ 単元の最初の「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項とのつながりをふり返っている。(1年 P65、2年 P15 等)</p> <p>ウ 単元末の「学び続ける理科マスター!」では、学びを深めたり発展させたりするための指針が示されている。(1年 P60-63、2年 P70-73 等)</p> <p>エ 学習の定着が図れるようよう、「ふり返り」が設けられている。(1年 P120、2年 P28 等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 観察・実験が「探究」としてまとめられ、「しっかり計画」「しっかり仮説」など実験・観察ごとの探究の重点が明確に示されている。(2年 P43、P117 等)</p> <p>イ 学年の巻末には、話し合いや深い学びを促すためにホワイトボードがつけられている。</p> <p>ウ 詳しい目次が見られるよう、QRコードが掲載されている。(2年、3年 等)</p>

理 科	理 科	発行者番号 17	略称 教出	書名 自然の探究 中学理科
-----	-----	----------	-------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 重要単語に違う色（オレンジ）がつけられている。（1年P31、2年P11等）</p> <p>イ 「課題」の後のページに「課題」に対する「結論」が示されている。（1年P117-118、2年P115-117等）</p> <p>ウ 基礎基本の定着ができるよう、単元末に、「要点と重要用語の整理」と「基本問題」が設定されている。（1年P74-P77、2年P78-81等）</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 教科書の最初に、「探究の進め方」が疑問の見つけ方から順を追って説明されている。（1年P -3、2年P -3等）</p> <p>イ 計算が必要な場合は、解き方が示されている。（1年P97、2年P250等）</p> <p>ウ 「疑問から探究してみよう」では、探究的な活動の流れが示されている。（1年P140-145、2年P173-176等）</p> <p>エ 話し合ったり考えたりすることが促せるよう、巻末に、1年生は「生物カード」、2年生は「原子モデル」、3年生は「星座早見表」が掲載されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 基本から応用までの演習が行えるよう、巻末付近に「学年末総合問題」が設定されている。（1年P286-288、2年P302-305等）</p> <p>イ 理科のテーマを「自然の探究」とし、1年生で「なぜ理科を学ぶのか」、2年生で「本質を解き明かす」、3年生で「さらなる解明へ」として継続性を持たせている。（1年P、2年P等）</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 身近にある地形、地層の観察から地層の成り立ちと変化の単元では「序章」が設定されている。（1年P154-161）</p> <p>イ 地震についての実習では、地震発生時刻によるゆれの伝わり方を調べる方法だけでなく、初期微動継続時間の長さからも調べるよう工夫されている。（2年P197-199）</p> <p>ウ 「地球と宇宙」の単元では、「宇宙の広がり」、「天動説・地動説」から「天体の1日の動き」について学習する流れになっている。（3年P122-139）</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 章のはじめに「学習前の私」、終わりに「学習後の私」の枠が設定され、学習前後の知識の変容を確認できる工夫がされている。（1年P8、P25、2年P8、P29等）</p> <p>イ 単元のはじめに「学んでいくこと」が記述され、学習への見通しが持ちやすいよう工夫がされている。（1年P79、3年P67等）</p> <p>ウ 多くの節に「疑問」「課題」「結論」の枠があり、何について考え、どうまとめていくのかが明確にされ、「課題」の後には「仮説」「計画」の枠や既習内容との関わりから考える場面が設定されている。（1年P37-38、3年P133-136等）</p> <p>エ 考えが整理できるよう、観察・実験などの結果を教科書に直接記入しながらまとめる「記述」が設けられている。（1年P29、P87等）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 文字が13ポイントで大きく示されている。</p> <p>イ 「ハローサイエンス」では、環境問題や生活に関連した話題、発展的な内容が記述され、巻末には索引が記載されている。（1年P18、P304等）</p>

理 科	理 科	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 未来へひろがるサイエンス
-----	-----	----------	--------	-----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 図や写真が多く掲載されている。(1年P22-23、2年P14-15等)</p> <p>イ 仮説を立てて考えさせる流れとなっている。(1年P91-93、3年P87-89等)</p> <p>ウ 小学校や前学年を思い出させる「つながる学び」が設定されている。(1年P18、P23等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 興味・関心を持って学習のスタートが切れるよう、「科学にアクセス」に関連動画を見ることができるQRコードが掲載されている。(1年P3、2年P3等)</p> <p>イ 単元の最初には「学ぶ前にトライ!」という課題と単元末には「学んだ後にリトライ!」という振り返りが設定されている。(2年P213、P281、3年P47、P93等)</p> <p>ウ 「話し合ってみよう」では、対話的な活動が設定され、身近にある現象が学習課題として取り上げられている。(1年P189、2年P19等)</p> <p>エ 実験方法を計画したり、多様な観点で観察したりすることができる工夫されている。(2年P35-37、3年P87-89等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全学年が「生命」「地球」「物質」「エネルギー」の順で配列されている。</p> <p>イ 基礎から応用まで確認が行えるよう、単元末には、「学習のまとめ」「力だめし」が設けられている。(1年P54-59、2年P60-65)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「なるほど」というコラムでは、学習内容と関連した身近なものが紹介されている。(1年P38、2年P16等)</p> <p>イ 「ラボ」では、学習内容と関連した日常生活のことが紹介されている。(1年P53、2年P59等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「課題の明確化 仮説 計画 実践 結果のまとめ」の流れが確認できるよう、単元のはじめやポイントとなる観察・実験に「探Qシート」が掲載されている。(1年P13、3年P87等)</p> <p>イ 動画資料で振り返りが行えるよう、「探Qシート」にはQRコードが掲載されている。(1年P13、3年P87等)</p> <p>ウ 単元末の「みんなで探Qクラブ」では、身のまわりの疑問に対して探究の過程にそって解決していく活動が紹介されている。(1年P200、P262等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「実験を正しく安全に進めるために」の中には、全学年に地震が発生した場合について記述されている。(1年P131、3年P102等)</p> <p>イ 「防災・減災ラボ」では、学習内容と関連づけて示されている。(1年P85、P119等)</p> <p>ウ 「持続可能な社会をめざして」が1つの章としてまとめられている。(3年P302-309)</p> <p>エ 「もくじ」に調べたい学習内容や資料の掲載ページが詳しく記述されている。(1年P - 、2年P - 等)</p>



音樂

音楽	音楽	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学音楽1、2・3上、2・3下、中学器楽
----	----	----------	-------	-------------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習指導要領〔共通事項〕の用語や記号が右下に記載され、音楽科の内容に基づく学習のねらいが明示されている。</p> <p>イ 器楽において、姿勢や構え方、運指や奏法について写真や説明が掲載されている。(器楽P12、19、21、28-30、36-38、44-48、巻末等)</p> <p>ウ 楽器や舞台芸術の資料がまとめてあり、鑑賞に役立つほか、それぞれの違いを視覚的に理解するための工夫がされている。(各巻末)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「うたう」「つくる」「きく」の分類で色分けされ、「学びのユニット」によって見直しをもって学習できるように工夫されている。</p> <p>イ 「学びリンク」(バーコード)によりコンピュータを用いた学習ができ「深めてみよう」「発展」の記述により、主体的な学習や、音楽科の見方・考え方に基づいた学びの視点が設定してある。(器楽P26、52)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 1年では「歌唱」、2・3年上では「器楽」、2・3年下では「舞台芸術」をテーマに、「何が同じで、何が違う?」のワークシートによって、西洋音楽とアジアや我が国の音楽とを比較できる配列となっている。(1年P60、2・3年上P56、2・3年下P50)</p> <p>イ 各単元の学びをつなげたり深めたりすることができるよう、「比べてみよう」「深めてみよう」の学習を通して音楽を形づくっている要素に着目しながら楽曲が比較できる。</p> <p>ウ 器楽の教科書では、歌唱領域で学んだ「荒城の月」や、鑑賞領域で学んだ長唄「勧進帳」を、それぞれ箏や三味線で演奏することができる等、領域間の関連性を意識して単元が設定されている。(器楽P41、51)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 歌唱領域では、1年で旋律のまとまりごとの違い、2・3年上で曲想と工夫点、2・3年下で速度の変化に着目するなど、各学年の発達段階に応じて学びを深めることができるよう、「ACTIVE!」という活動が各領域に設定されている。(1年P8-9、2・3年上P8-9、2・3年下P8-9)</p> <p>イ 鑑賞教材において、唱歌などの歌唱や伴奏楽器の表現活動があり、表現分野との関連を図った構成の工夫がされている。(1年P52-53、2・3年上P62-63、2・3年下P44-45)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 題材「日本の歌みんなの歌」で、我が国の自然や四季、日本語の美しさを感じ取ることができる教材の選択や、写真・資料等の掲載がある。(1年P14-19、2・3年上P14-19、2・3年下P12-19)</p> <p>イ 創作を深めるために、旋律創作、構成を意図した言葉による創作、表現教材が配列されている。(1年P32-37)</p> <p>ウ 鑑賞教材「プルタバ」において、楽曲や作曲者に関する説明や「フィンランディア」の学習を通して、他教科との関連を図ることができる工夫がされている。(2・3年下P26-31)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「コンピュータ」と音楽に関する内容や、「インターネット」「アウトリーチ」「著作権」「音楽療法」など社会と音楽の関連についての取り扱いはある。(2・3年上P70-71、2・3年下P64-67)</p> <p>イ 各巻頭に人間としての生き方に触れることができる芸術家としての考えや、作品に込めた思いなどが掲載されている。</p>

音楽	音楽	発行者番号 27	略称 教芸	書名 中学生の音楽1、2・3上、2・3下、中学生の器楽
----	----	----------	-------	-----------------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各教材に「学習目標」「具体的な学習活動」「音楽を形づくっている要素」が明確に示され、学習指導要領[共通事項]の新出記号がページの右上に記載されている。(1年P13、P19等)</p> <p>イ 楽器の特徴や姿勢、仕組みや扱い方、奏法について文章や写真等で解説されている。(器楽P16-18、P21、P31-37、P40-43、P47等)</p> <p>ウ 各楽曲について、写真やイラスト、図譜等で説明されている。(1年P52-54、P60、2・3年上P42-43、2・3年下P38-39、P40-41等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「深めよう!音楽」に学習の手順が示され、書き込みができるワークシートが掲載されている。(1年P37、P39、P47、P62、2・3年上P16、P23、P29、2・3年下P32、P33、P53、器楽P11、P15)</p> <p>イ 「Challenge!」「Let's Create!」の学習のほか、吹き出しによるヒントやQRコード等により、主体的に考えを広げたり深めたりする手立てがある。(1年P20、P40-41 2・3年上P38-39、2・3年下P13、P32-33等)</p>
容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「My Melody」「My Voice」「Let's Create!」で、表現の工夫や創作において発達段階に応じた系統性がある。</p> <p>イ 1年では「エーデルワイス」と「春」、2・3年下では「ブルタバ」等で、英語や社会などの他教科と関連を図る教材が配置されている。(1年P38、P46、2・3年下P34-35)</p> <p>ウ 器楽の教科書では、歌唱教材「ふるさと」「エーデルワイス」や、鑑賞教材「春」「ブルタバ」「寄せの合方」を、リコーダーやギター、太鼓で演奏できる等、関連した学習ができる工夫がされている。(器楽P30、P76、P78、P84、P94-95)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「My Voice」「ふるさと全校合唱」で発達段階に応じた合唱の編成や各パートの声域について考慮されている。(1年P20、P70-71、2・3年上P78-79、2・3年下P72-73)</p> <p>イ 各学年で「指揮をしてみよう!」の活動を取り入れ、幅広い音楽活動に繋がる構成になっている。(1年P42、2・3年上P50、2・3年下P66)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 題材「心の歌」で、作詞者や作曲者の言葉の記載や歌詞の情景を表す写真やイラストなどの掲載がある。(1年P26-29、2・3年上P18-25、2・3年下P10-22)</p> <p>イ 「My Melody」「Let's Create!」の学習において、音楽を形づくっている要素と表したいイメージとをかかわらせた創作の手順が段階的に示されている。(1年P21-23、2・3年上P36-39、2・3年下P30-33)</p> <p>ウ 日本の民謡や世界の諸民族の音楽だけではなく、J-POPなどのポピュラー音楽にもふれることができるよう構成されている。(2・3年下P58-63)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「社会を映し出す音楽」「震災復興の音楽」「著作権」などが取り上げられ、音楽がもつ社会的な役割についての記載がある。(1年P88、2・3年下P64、P70)</p> <p>イ さまざまな音楽ジャンルの特徴や歴史のページがあり、生涯にわたって日本や世界の音楽文化を楽しむ教材が取り入れられている。(1年P66、2・3年上P72、2・3年下P68-69)</p>

美術

美術	美術	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 美術1、美術2・3
----	----	---------	--------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「学習の目標」が資質・能力の三つの柱に基づいて整理されている。</p> <p>イ 基礎的知識や技能を身に付けることができるよう、「学びの資料」のページが巻末に設けられている。</p> <p>ウ 必要に応じて「美術の用語」についての解説がつけられている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 各題材の中で、個に応じて自ら学びが進められるよう、「学習のポイント」や発想・構想のヒント、制作の手立てが示されている。</p> <p>イ 紙面全体にマークが示され、目次ページに、そのマークについての説明がある。</p> <p>ウ 多くの美術作品が紹介され、紙面の下部には、学習を進める上で参考となるページや関連づけて学習できるページが示されている。</p> <p>エ 学習の参考となる資料や動画を見ることができるよう、教科書紙面にQRコードが掲載されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 「美術1」では、巻頭に「学びの地図」というページを設け、それぞれの分野、題材の関連性が図示されている。（P5-7）</p> <p>イ 「絵や彫刻」「デザインや工芸」等、学習活動の題材ページの入り口では、各学習活動の意味や目的が考えられるようにしてある。</p> <p>ウ 「美術1」「美術2・3」ともに、鑑賞と表現を関連づけた学習ができるよう、題材によって2ページ以上で構成されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 「美術1」では「発見と創造」、「美術2・3」では「探求と継承」というテーマが設定され、発達段階に合わせた学習内容の構成が工夫されている。</p> <p>イ 「美術1」では、より身近な視点から美術と生活とのつながりを考えられるような内容が取り上げられている。（P34-35等）</p> <p>ウ 「美術2・3」では鑑賞領域が多く、「日本らしさ ～ 」では日本美についても多く取り扱われている。</p> <p>エ 「美術2・3」では、自己と社会、美術と社会の関わりを考えられるよう3年間の学習について「まとめ」のページが設けられている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「美術1」「美術2・3」ともに折り込みページの活用や大型図版の掲載等、鑑賞学習の充実が図られている。（1年P24-29、2・3年P96-101等）</p> <p>イ 地域の文化財の大切さや、美術館の活用等を促す題材が設定されている。（1年P50-51、P65-67等）</p> <p>ウ 「美術2・3」では、「暮らしに生きる美術」として、社会における美術の働きを問いかけるため、美術で学んだ力を職業に生かしている人物のコメントが紹介されている。（P6-7）</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 題材と関連づけて学習できる他教科の内容が、マークで示されている。</p> <p>イ 作品の紹介に加え、人の生き方や考え方にふれる等、キャリア教育につながる内容が多く設定されている。（2・3年P62-63等）</p> <p>ウ デザインや工芸を学ぶ際、SDGsの考え方が取り入れられている。</p> <p>エ 全ての文字においてUDフォントの採用やカラーユニバーサルデザインの考え方で紙面の配色を工夫する等、特に特別支援教育に対応した配慮がされている。（1年 P63等）</p>

美術	美術	発行者番号 38	略称 光村	書名 美術1、美術2・3
----	----	----------	-------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各題材の「目標」では、その題材で身につける力が「表現」と「鑑賞」の領域ごとにまとめられている。</p> <p>イ 「学習を支える資料」の割合が多く、材料や用具、技法、形や色彩等について具体例を示しながら、解説がつけられている。</p> <p>ウ 「学習を支える資料」の中で、作品をつくる際の安全についての注意事項がマークで示され、解説がつけられている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 発想・構想を促す工夫として、各題材に具体的な手立てを示したり制作過程を紹介したりするページが設けられている。</p> <p>イ 各題材の下部に、関連する巻末資料のページが示されている。</p> <p>ウ 多様な価値観や見方・考え方にふれることができるよう、作家や生徒の作品に適宜「作者の言葉」が添えられている。</p> <p>エ 「技法動画」「音声ガイド」「360度動画」「全国の生徒作品」を検索することができるよう、QRコードが掲載されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 「美術1」では、小学校の図画工作科との学習のつながりや、中学校3年間の学習の見通しが解説されている。(P6-9)</p> <p>イ 「美術1」「美術2・3」ともに、絵画や彫刻、デザインや工芸の順で、分野ごとに紙面が構成されている。</p> <p>ウ 一つの題材の中で、「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成がしてあり、各題材における学びの流れが示されている。</p> <p>エ 他教科とのつながりを示すコラム欄が設けられ、美術での学びと他教科とのつながりが示されている。(1年P43等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 各題材の初めに鑑賞の「問い」が設定され、鑑賞から表現へのつながりを生み出す一連の流れが構成されている。</p> <p>イ 「美術2・3」では、一部の鑑賞題材に「作品紹介」「作家紹介」「美術史ワード」のコーナーが設けられ、関連性の高い作品を一つの題材の中で扱い、比較して鑑賞できるようにされている。</p> <p>ウ 巻末の「学びを支える資料」では、「美術1」は材料や用具、技法や知識に関する内容を中心とし、「美術2・3」では、美術と社会とのつながり、美術の力等について問う発展的な内容が扱われている。</p> <p>エ 学年の発達段階に合わせ、様々な「美しさ」について気づき、考える題材で構成されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 鑑賞図版は、より本物に近い感覚で見ることができるよう、紙面での見せ方や紙質が工夫されている。(1年P19-20等)</p> <p>イ 「美術2・3」の「最後の晚餐」を鑑賞する題材では、鑑賞を深める工夫として書き込み型のトレーシングペーパーが付いている。(P10-13)</p> <p>ウ 多様な価値観にふれられるよう、様々な国や地域、時代の作品等が掲載されている。(1年P56-57等)</p>
その他	今日の教育的課題との関わりなど	<p>ア 道徳科とのつながりのあるページにマークが示されている。</p> <p>イ 環境、キャリア教育、人権、SDGs等の考え方を意識した作例が掲載されている。</p> <p>ウ 「心安らぐ場をつくる」というテーマで、災害が起きてしまった後に美術が社会に果たせる役割について考えさせる題材が設定されている。(2・3年P74-75)</p>

美術	美術	発行者番号 116	略称 日文	書名 美術1、美術2・3
----	----	-----------	-------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 全題材において「学びの目標」が資質・能力の三つの柱に基づいて整理されているとともに、「造形的な視点」についての問いが示されている。</p> <p>イ 教科書本体がA4版よりも少し大きいため、図版が大きく、見やすく配置されている。</p> <p>ウ 作品をつくる上での安全面や活動する際の注意点がマークと解説で示されている。</p> <p>エ 巻末の「学びを支える資料」では、発想・構想や知識・技能等に役立つ内容が掲載されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「主題を生み出す」ための発想や構想の手立て、ワークシートやアイデアスケッチの記入例等の具体例が多く示してある。</p> <p>イ 制作に必要な情報を得ることができるよう、題材ごとに「学習を支える資料」の関連ページが示されている。</p> <p>ウ 各学年の目次ページに、「この教科書で学びみなさんへ」と題して、教科書の使い方や「題材ページの主な構成」等が示されている。</p> <p>エ 発想や構想のヒントになるよう、生徒の作品とともに、作者の思いが示されている。</p> <p>オ 360度の作品鑑賞や制作手順の動画等を見ることができるよう、QRコードが掲載されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 発達の段階に応じた学びが重視され、生徒の成長に応じて3学年、3分冊として内容が構成されている。</p> <p>イ 表現と鑑賞を一体的に扱う題材が多く設定され、学びを深めることができるよう、題材構成が工夫されている。</p> <p>ウ 領域・分野別のガイダンスページが設けられ、学習の導入として活用できる工夫がされている。(1年P10-11等)</p> <p>エ 1年生は身の回りの関心、2・3年生は生活や社会に関わる関心から資質・能力の育成が図られるよう、新学習指導要領に基づいた題材配列や系統性が意識されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 各学年、オリエンテーションのページが充実し、発達段階に合わせて見方・考え方を働かせられるよう工夫されている。</p> <p>イ 一つの題材において、絵画や彫刻、デザインや工芸等の様々な領域の作品が参考作品として紹介され、レイアウトが工夫されている。(2・3年下 P8-11等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 鑑賞資料が原寸大の鑑賞図版7点が示されて、高精細印刷による実物に近い色味の再現や実際に屏風を折って立たせて見ることができるなど、実感をともなった理解につなげる工夫がされている。(1年P32-37)</p> <p>イ 「美術2・3下」では、「どこまで修復すべきか」という課題が扱われ、美術文化の継承について考えることのできる題材が設定されている。(P32-33)</p> <p>ウ 「美術2・3下」では、「社会に生きる美術の力」として、社会で活躍する人たちからのメッセージが紹介されている。(P58-59)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 美術における学びと生き方や社会との関連が意識され、他教科や地域社会、キャリア教育などを意図した題材が多く設定されている。(2・3年上P32-33、P46-47、2・3年下P46-47等)</p> <p>イ 道徳科の学習と関連している内容がマークで示されている。</p> <p>ウ 環境、人権、SDGs等、現代的・社会的課題についての問いかけがあり「これからの社会につながる学び」が意識されている。(2・3年上P38-39、P40等)</p>

# 保健体育



保健体育	保健体育	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい保健体育
------	------	---------	-------	------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1時間の授業の流れが「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」で示されている。(口絵9、P6-7)</p> <p>イ 知識の定着を図ることができるよう、章末に「確認の問題・活用の問題」が設定されている。(P47-48等)</p> <p>ウ 理解が促せるよう、巻末に「キーワードの解説」として、重要語句とその説明のまとめが一覧として掲載されている。(P180-184)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 興味・関心を高め、主体的な参加が促せるよう、考えさせるための「見つける」が設定されている。(P6等)</p> <p>イ 「学習課題」によって学習した内容をより身近な問題として捉えることができ、行動化につながるようになっている。(P6等)</p> <p>ウ インターネットを活用した学習をサポートし、探究活動などにつながるよう、50個の「Dマークコンテンツ」が掲載されている。(P1)</p> <p>エ 学習のヒントを提示し「キャラクターの発言」や資料を深く読み取るための視点を示した「!ポイント」が各所に配置されている。(P10等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 保健分野、体育分野の順に配列されている。</p> <p>イ 各学年の学習内容が明確になるように、それぞれの分野において学年ごとに配列されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「学びのつながり」が意識できるよう、章扉の「この章で学習すること」で小学校と高等学校の学習内容との関連性が示されている。</p> <p>イ カリキュラムマネジメントの視点で他章や他教科との関連性が示され、章扉や本文のページに「リンクマーク」が掲載されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「心の健康」を合計13ページで取り扱い、実際に役立つアサーションの方法が紹介されている。(P45)</p> <p>イ 「からだの健康」「傷害の防止」において「体育分野」と「保健分野」の関連性に対応している。(P42、P81-83)</p> <p>ウ 「傷害の防止」において交通事故(自転車事故)の被害者と加害者両方の立場で考えられるよう工夫されている。(P65)</p> <p>エ 巻末資料として新体力テストの実施要項が掲載されている。(P190-191)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「体育分野」「保健分野」に関連した話題等の掲載があり、興味・関心を高める工夫がされている。(口絵1-9)</p> <p>イ 巻末資料に生活で直面するインターネットによるコミュニケーションとトラブルについて掲載されている。(P46)</p> <p>ウ 巻末資料に「アンチ・ドーピング」が取り上げられている。(P178)</p> <p>エ 「SDGs」について紹介されている。(P166)</p>

保健体育	保健体育	発行者番号 4	略称 大日本	書名 中学校保健体育
------	------	---------	--------	------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1時間の授業の流れが「学習のねらい」「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」で示されている。(口絵17、P16-17、P98-99等)</p> <p>イ 章末に、資料や学びを生かせるワークシート、「学習のまとめ」として重要語句の解説が示されている。(P14等)</p> <p>ウ 各単元の「キーワード」がピックアップしてあり、ポイントが示されている。(P5等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「活用して深めよう」では、自分の生活に活かしたり、学びを深めたりできる工夫がされている。(P5等)</p> <p>イ 学習内容が深められるよう、各ページ下の脚注に「ミニ知識」が挿入されている。(P4等)</p> <p>ウ 各章末に「学びを活かそう」で実際の生活に活かす工夫がされている。(P27、P69等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 体育分野、保健分野の順に配列されている。</p> <p>イ 各学年の学習内容が明確になるよう、それぞれの分野において、学年ごとに配列されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 口絵の初めに保健体育科の目標が示され、3年間の学習内容が系統立てて図示され、学びのつながりや系統性が分かるよう工夫されている。(口絵1-2)</p> <p>イ 各章扉に学習内容や小学校及び高等学校との系統性が示されている。</p> <p>ウ 家庭や地域における健康や安全について考える活動が促せるよう「家」「地域」マークが掲載されている。(P6、P25、P96)</p> <p>エ 動画や資料を使って学ぶことができるよう、「WEB」マークが掲載されている。</p> <p>オ 他教科とのつながりが「リンク」マークで示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 巻末資料等でオリンピック・パラリンピック教育に関する資料が掲載されている。(口絵7-8、P129-130)</p> <p>イ 心肺蘇生法の手順について、複数ページにわたって一目で分かるよう、折り込みが採用されている。(P106-109)</p> <p>ウ 巻末資料として新体力テストの実施要項が掲載されている。(P168-169)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 口絵にSNSの利用に伴うメリット・デメリットが記載されている。(口絵13-14)</p> <p>イ 口絵や巻末資料にオリンピック・パラリンピック等の内容が図解や写真で多く掲載されており、興味関心を高める工夫がされている。(口絵4-5)</p>

保健体育	保健体育	発行者番号 50	略称 大修館	書名 最新 中学校 保健体育
------	------	----------	--------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1時間の授業の流れが「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」で示されている。(口絵9-P1、P6-7等)</p> <p>イ 本時の学習課題を「きょうの学習」として学習する内容を明確にし、キーワードとして取り上げた重要語句と本文中の太字をリンクさせている。(P7等)</p> <p>ウ 章末の「章のまとめ」が評価項目によって分類され、「指導と評価の一体化」につながる工夫がされている。(P14-15等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「コラム」「事例」「保健の窓」「体育の窓」で実生活に生かせる工夫がされている。(P9、P18、P24、P129等)</p> <p>イ 発展的な学習につながるよう、「クローズアップ」や「特集資料」が掲載されている。(P54、P68等)</p> <p>ウ 「課題をつかむ」が、選択式、話し合い、振り返りなどの形式となっている。(P6、P8、P10等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 体育分野、保健分野の順に配列されている。</p> <p>イ 各学年の学習内容が明確になるよう、それぞれの分野において、学年ごとに配列されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学びのつながりが意識できるよう、章扉で小学校及び高等学校との系統性が示されている。</p> <p>イ 心肺蘇生法について、チェックポイントが表で示され、活用できるような工夫がされている。(P112-113)</p> <p>ウ 学習する内容に関連した内容が分かるよう、「他教科マーク」「関連マーク」が掲載されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「喫煙と健康」「飲酒と健康」「薬物乱用と健康」「交通事故の防止」において、「規範意識」を養えるよう配慮されている。(P84-91)</p> <p>イ 「傷害の防止」において、交通事故(自転車事故)の被害者と加害者の両方の立場で考えられるよう工夫がされている。(P100-103)</p> <p>ウ 巻末資料として新体力テストの実施要項が掲載されている。(P176-177)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「特集資料」に災害や感染症などの課題や健康で安全な生活に向けての資料が記載されている。(P92-93、P116-117、P150-151、P172-173)</p> <p>イ 「心の健康」の最後に、いじめについての資料や対処法、相談機関等の紹介がある。(P55)</p> <p>ウ 「共に生きる」の視点でパラアスリートが紹介されている。(口絵5-6)</p> <p>エ 「SDGs」と保健体育の学習とかがわりの深いものが紹介されている。(口絵7-8)</p>

保健体育	保健体育	発行者番号 224	略称 学研	書名 中学保健体育
------	------	-----------	-------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1時間の授業の流れが「学習の目標」「課題をつかむ」「本文と資料」「考える・調べる」「まとめる・深める」で示されている。(P10、P16-17等)</p> <p>イ 重要語句がゴシック体で表記されている。(P16等)</p> <p>ウ 「学習の目標」の下に「キーワード」があり、重要語句が分かりやすく示されている。(P16等)</p> <p>エ 知識の定着を図れるよう章末に再度「キーワード」が掲載されている(P25等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 深い学びとなるよう、章末に「探究しようよ!」のコーナーが設けられている。(P22-24等)</p> <p>イ 興味・関心を高められるよう、ページ下に「情報サブリ」「リンク」「探究」等の情報や発展的課題が掲載されている。(P6等)</p> <p>ウ 学習をサポートできるよう、章末の「章のまとめ」に、自己評価のチェックシートや確認問題、活用問題が示されている。(P25等)</p> <p>エ 「キャラクター」を挿入し、各所で学習の要点や日常との関係性などについて記載されている。(P16等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 体育分野、保健分野の順に配列されている。</p> <p>イ 各学年の学習内容が明確になるよう、それぞれの分野において、学年ごとに配列されている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 章扉で小学校と高等学校での学習内容が紹介され、学習の系統性が示されている。</p> <p>イ 心肺蘇生法について、ポイントチェックシートが示され、活用して技能の習得ができるよう工夫されている。(P124-126)</p> <p>ウ 章扉に内容に関連する「ひと」の紹介文が挿入されている。</p> <p>エ 「リンク」マークで学習の参考になるウェブサイトが紹介されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「がん」についての内容で、深い学びとなるよう探究的な内容の工夫がされている。(P90、P103)</p> <p>イ 「交通事故の原因」において、内輪差の写真で視覚的に理解できるよう工夫されている。(P111)</p> <p>ウ 個人で記録し、自分自身の体力の状況が確認できるよう、巻末資料として新体力テストの実施要項が掲載されている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 口絵に「いじめや悩み相談」についての心のサポートに関する紹介が示されている。(P4)</p> <p>イ オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップなどの国際大会の開催に関することについての学習で活用できるよう口絵で示されている。(口絵1)</p> <p>ウ 「SDGs」について紹介されている。(P148)</p>

# 技術家庭

## （技術分野）

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	発行者番号 2	略称 東書	書名 新しい技術・家庭 技術分野
------	----------------	---------	-------	---------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識・理解・技能の確実な定着が図れるよう、「まとめよう」「生活にかそう」で学習内容を振り返り、「自己評価」が記入できるように工夫されている。(P23、P33、P35等)</p> <p>イ 学習内容や重要な用語が確認できるよう各編の最後に「学習のまとめ」のページが設定されている。(P86-87等)</p> <p>ウ 学習の見通しや目標が明確になるよう、学習のはじめに「目標」と「キーワード」が示されている。(P20、P22、P30等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 主体的・対話的で深い学びが促せるよう、「活動」という項目が設定されている。(P21、P43、P133)</p> <p>イ 製品について社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性の観点から考えさせ、「最適化の窓」の考え方を生かすことができるよう、「技術の天びん」マークが付けられている。(P11、P12、P20等)</p> <p>ウ 身の回りの問題を解決できるよう、「私が開発者！問題解決カード」が設定されている。(P39、P41、P47等)</p> <p>エ 内容に関する発展的な内容が、「技術の工夫」として欄外に記載されている。(P20、P22、P24等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各編とも「原理や仕組みを理解する」「技術による問題解決を行う」「技術を評価し、選択、応用について考える」という3つの要素に沿って構成されている。(目次1-2)</p> <p>イ 各編が「編の導入」「基本ページ」「学習のまとめ」の構成で統一され、問題解決例や資料が取り上げられている。(口絵 P1、P18-19)</p> <p>ウ 各編の冒頭に「この編で学ぶこと」「他教科とのつながり」「技術の見方・考え方」「技術の最適化」が示されている。(P18-19等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスでは、中学校で学習することや技術における問題解決の流れや「技術の見方・考え方」で捉えられるよう、「最適化の窓」が設定されている。(P11)</p> <p>イ 学習内容の関連性を図りながら学ぶことができるよう、「リンク」「他教科」「小学校」マークが示されている。(P30 P134、P138等)</p> <p>ウ インターネットを使ったDマークコンテンツやスマートフォンアプリ「教科書AR」を使った、新しい学び方が提案されている。(口絵、P19、P43等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 問題解決に役立つよう、基礎的な技能について手順をおって確認することができる「TechLab」が掲載されている。(P50-67、P114-115、P176等)</p> <p>イ 「情報の技術」では、プログラミングによる問題解決に役立てられるよう、別冊付録でプログラミング手帳が添付されている。(別冊P1-8)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア カーボンナノチューブ、スマートシティ、Society5.0などの最新技術について、特集ページとして紹介されている。(P29、P194、P260等)</p> <p>イ 持続可能な未来の実現のための思考ができるよう、SDGsとTechnologyについて特集されている。(口絵 - )</p> <p>ウ 技術分野に関係が深い職業人から職業観を学ぶコラム「技術の匠」が設定されている。(P67、P81、P126等)</p>

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	発行者番号 6	略称 教図	書名 New技術・家庭 (技術分野)
------	----------------	---------	-------	-----------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新学習指導要領3つの観点ごとに自己評価できるよう、章末に「まとめ」が設定されている。(P76-77、P118-119、P184-185等)</p> <p>イ 製作や実習に必要な写真や図版が大きく表されている。(P50-69、P100-105、P164-165等)</p> <p>ウ 見通しや目標意識が持てるよう、学習のはじめに「めあて」と「キーワード」が示されている。(P12、P14、P22等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習の見通しが持てるよう、実習例が流れに沿って見開きにまとめられている。(P26-29、P30-33、P50-55等)</p> <p>イ 自主的・主体的な学習が促せるよう「やってみよう」が設定されている。(P12、P17、P19等)</p> <p>ウ 問題解決的な学習ができるよう、どの編でも設計、計画の手順が4つのステップで統一されている。(P37、P92、P156等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア すべての内容項目が、「1章 つくって・育てて学ぼう(知識・技能)」「2章じっくり学ぼう(設計・計画)」「3章学びを深め生かそう(評価・活用)」の構成になっている。(目次 -1)</p> <p>イ 見方・考え方を育む学習ができるよう、学習の流れが「見つける」「学ぶ」「振り返る」の3ステップで構成されている。(P2-3、P12-13、P14-15等)</p> <p>ウ 学んだ技術が組み合わせて学べるよう、夢の技術について考えるE編「夢をかなえる技術」が設定されている。(P270-283)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 教科書と基礎技能の両方を見ながら実際に作業できるよう、実習の基礎技能が別冊の「技術ハンドブック」にまとめられている。</p> <p>イ 本文中の作業を動画で見ることができるようQRコード「まなびリンク」が掲載されている。(P27、P51、P87等)</p> <p>ウ 各編2章で学習した設計・計画の流れをもとに、製作したい作品の構想を立てて実現できる「設計計画表」が切り取り式で設けられている。(巻末ワークシート)</p> <p>エ 学習内容の関連性を図りながら学ぶことができるよう、「リンク」「小学校・中学校の各教科」が記載されている。(P12、P36、P72等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 進路選択の参考となるよう、畜産、林業、工業、水産等の専門高等学校に進学した先輩からのメッセージが掲載されている。(P284-285)</p> <p>イ A編とD編で学習したことを生かして、生活や社会における問題を解消する作品を設計・製作し、コンテストに入賞した先輩の経験が掲載されている。(P71、P179)</p>
その他	今日の教育課題との関わりなど	<p>ア 「Society5.0」や「SDGs」について取り上げられ、学習した技術がどのように社会に生かされるのかが例示されている。(P120-121、P182-183)</p> <p>イ 巻頭では小学校の学習を振り返りながら生活の中の身近な技術を探し、巻末では3年間の学習を振り返り未来の社会に視線を向けて考えられる仕組みになっている。(口絵 - 、 - )</p> <p>ウ 小学校や自宅での体験を生かせるようなビジュアル型プログラミング言語、高等学校や将来に生かせるような日本語入力型のプログラム言語が掲載され、小中高の接続を意識したプログラミング学習が構成されている。(P210-211、P212-213)</p>

技術家庭	技術家庭 (技術分野)	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 技術・家庭 技術分野
------	----------------	---------	--------	------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習内容が明確になるよう、「学習の目標」「調べてみよう」が冒頭に提示されている。(P24、P26、P28等)</p> <p>イ 基礎的な事項の定着を図れるよう、各章ごとに「ふり返し」で学習内容を振り返り、「自己評価」が記入できるように工夫されている。(P25、P43、P55等)</p> <p>ウ 学習の定着を図れるよう、各編の終わりに「学習のまとめ」で内容を振り返るページが設定されている。(P92-93、P138-139、P192-193等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学んだ知識や技能を生かして生徒が問題を見つけ、解決できるような工夫がされている。(P46-47、P116-117、P178-179等)</p> <p>イ 実践的・体験的な学習活動における実習例を取り上げ、状況に応じた学習活動が選べるような提示がされている。(P56-67、P120-133、P180-187)</p> <p>ウ 学んだことをこれからの生活に生かしていけるよう、全ての編終了後「技術分野での問題解決を振り返ろう」が設定されている。(P266)</p> <p>エ 内容に関する発展的な内容が「豆知識」として欄外に記載されている。(P2、P3、P4等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 全ての単元が「知識や技能を身につける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」の順に学習するよう計画され、学習の流れがイメージできる構成となっている。(P6-7)</p> <p>イ 技術を未来につなぐページが、各編の最後に設定されている。(P90-91、P136-137、P190-191等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学習内容の関連を図りながら学ぶことができるよう、「リンク」「情報モラル」「他教科」「小学校」のマークが工夫されている。(P26、P103、P110等)</p> <p>イ QRコードから動画や資料などの様々なコンテンツにアクセスすることができる。(P13、P17、P27等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 先人の知恵や技能が日本の文化を支え、発展させてきたことが理解できるよう、巻末に日本各地の特産品が紹介されている。(P292-294)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 参考の欄では、3つのRと5つのR、ピクトグラム、ワンタイムパスワードなど、今日的な課題を取り上げ、時代の先端技術や考えが紹介されている。(P89、P220、P229等)</p> <p>イ 携帯電話のトラブルに巻き込まれないよう、携帯電話の利用について見開きに記載されている。(P295-296)</p>



# 技術家庭 (家庭分野)

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	発行者番号 2	略称 東書	新しい技術・家庭 家庭分野
------	----------------	---------	-------	---------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基礎的・基本的な知識・技能を「いつも確かめよう」や巻末資料の写真等にまとめ、動画等を見ることができるよう、QRコードが掲載されている。(P54-63等、P21等)</p> <p>イ 家庭科の「見方・考え方」の視点がガイダンスや大題材のタイトルページに示されている。(P8、P20、P106、P158、P184、P212)</p> <p>ウ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を自己評価できるよう、小題材ごとに「まとめよう」や自己評価欄が設定され、大題材ごとに自分の生活に生かすことができるよう「学習のまとめ」が設定されている。</p> <p>エ 「大切な用語」「小題材の見出し」で学習ごとのキーワードがまとめられている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学んだことを活用し、自らの課題を設定して解決する実践の過程が「生活の課題と実践」として具体的な実践例とともに掲載されている。(P268-277)</p> <p>イ 見通しをもって学習できるよう、ガイダンスページ、大題材の最初、小題材タイトルに学習過程が示されている。(P8-9、P20、P106、P158、P184、P212)</p> <p>ウ 資料に実寸大写真が掲載され、生徒の学びの意欲、興味・関心を高めるための工夫がされている。</p> <p>エ 「考えてみよう」「生活にいかそう」「やってみよう」「調べてみよう」やキャラクターの吹き出しの言葉で学習のポイントを絞り、興味を喚起したり学習を発展・深めたりできるように工夫されている。</p> <p>オ 巻末に、防災・減災手帳と子どもの視界体験眼鏡が付録として添えられている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 小学校、高等学校との学習の系統性や発達段階を踏まえ、衣食住などの身近な内容が前半に、消費生活や環境、家族・幼児や高齢者などに関する内容が後半に位置付けられている。</p> <p>イ 家庭科でよく用いられる用語の解説が掲載されている。(P286-287)</p> <p>ウ 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、生活の中から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を設定し、解決していく単元構成になっている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスのページで3年間の学習のねらいが押さえられ、最後に3年間のまとめのページが設けられている。(P12-13、P278-279)</p> <p>イ 「リンク」「他教科」「小学校」というマークでそれぞれの関連する内容や、「環境」「消費者」「伝統文化」などのマークで配慮することが示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 調理実習の時間配分や手順等が示されている。(P67等)</p> <p>イ 衣生活の実践を具体的に示す例が紹介され、興味・関心を高める工夫がされている。</p> <p>ウ 「学んだことをいかす」では、家庭科の授業が将来どのように社会とつながるのかという視点が示されている。(P282-283)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「環境」「消費者」「伝統文化」「防災」「情報モラル」といった現代的な諸問題を意識しながら学習が進められるようマークが示されている。</p> <p>イ 実習などを安全におこなうため、「安全」「衛生」などのマークを付けて注意喚起し実習のコツなどには「ポイント」マークが付けられている。</p> <p>ウ 伝統と文化の尊重、家庭生活の充実、個性や立場の尊重など、道徳教育との関連が図られている。</p>

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	発行者番号 6	略称 教図	New技術・家庭 家庭分野
------	----------------	---------	-------	------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 重要語句が確認でき、QRコードで関連するリンクを確認できるよう、基本的な用語が「キーワード」として明記されている。</p> <p>イ 各内容が基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の3ステップで構成されている。</p> <p>ウ 学習の目標が題材名のすぐ下に「めあて」として記載され、「学習のふり返り」では、基礎的・基本的な知識・技能の習得が自己評価できるよう設定されている。(P34等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「生活の課題と実践」が「学びを生かそう」として配置され、複数の取り組み事例が掲載されている。</p> <p>イ 学習前に自己診断をし、関心を高めることができるよう、全ての学習の導入で「自立度チェック」が設定されている。</p> <p>ウ 主体的・対話的に取り組めるワークが「調べてみよう」「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」で設定されている。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学習指導要領の内容(A~C)の順に配置され、最後にまとめて「生活の課題と実践」が掲載されている。(P282)</p> <p>イ 口絵のページに1年間と一生の行事が写真入りで紹介されている。</p> <p>ウ 全体の目次の中に「発展」や「学びを生かそう」など、実践的で探究的に学ぶことができる工夫があり、小单元ごとに「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」とすべて三部構成になっている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイドランスのページでは、3年後の自分のなりたい姿がイメージできるよう工夫があり、最後には3年間のまとめのページが設定されている。(P8-11、P292)</p> <p>イ 小題材に「めあて」と「キーワード」があり、「学ぶ」という見出しで内容がわかる工夫がされている。</p> <p>ウ 「リンク」「他教科」「小学校」というマークでそれぞれの関連する内容や「環境」「消費者」「伝統文化」「共生」などのマークで配慮することや意識することが示されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 調理の手順が明確に示され、アレンジ例や失敗例について掲載されている。(P124等)</p> <p>イ 食生活では、材料に適した加熱調理の基本をおさえた調理例や地域の食材例、全国各地の郷土料理が掲載され、衣生活は、基礎・基本が練習できる題材から、自分の作りたいものを作る題材の順で紹介されている。(P119-120等、P150-153、P199-207)</p> <p>ウ 「学びを生かそう」「生活の課題と実践」など、問題解決的な学習例を示すページでは、6ステップで統一されている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「衣食住の生活」すべてにおいて、災害時の対策が扱われている。(P149等)</p> <p>イ 日本の伝統文化を取り上げ、継承していくことの大切さに気づくことができるよう配慮されている。(P156等)</p> <p>ウ 身近で視覚的な資料が、写真やイラストで解説され、興味・関心を持てるよう工夫されている。</p>

技術家庭	技術家庭 (家庭分野)	発行者番号 9	略称 開隆堂	技術・家庭 家庭分野
------	----------------	---------	--------	---------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 基礎的・基本的な定着を図るための動画や実践例を見ることができるよう、QRコードが掲載されている。(P23等)</p> <p>イ 家庭科の「見方・考え方」の視点がガイダンスで示されている。</p> <p>ウ 学習内容の確認ができるよう、学習の目標、導入課題の提示から本文に発展する流れや、各内容に「学習のまとめ」が設定されている。</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学んだことを活用し、自ら課題を設定して解決する実践の過程が「生活の課題と実践」でまとめられ、実践例が掲載されている。(P266～277)</p> <p>イ 専門家のコメント「先輩からのエール」で、見方・考え方を生活に生かす工夫が紹介されている。(P21、P24等)</p> <p>ウ 大きさやかたちがイメージできるように実物大の写真が掲載されている。(P14-15等)</p> <p>エ 「生活にいかそう」では、発展的な課題が掲示されている。(P41等)</p> <p>オ グラフ・資料を用いて思考させる工夫が随所に見られた。</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学習指導要領の内容(A～C)の順に配置され、最後にまとめて「生活の課題と実践」が掲載されている。(P266)</p> <p>イ 目次に、内容(A～C)毎の学習の流れが掲載され、各学習内容と「持続可能な生活」の関連が設定されている。(P64等)</p> <p>ウ 「やってみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」などが随所であり、導入や学習意欲の向上のための工夫がされている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ガイダンスのページが学習内容別に見開き2ページで紹介されている。(P2-11)</p> <p>イ 内容ごとのガイダンスのページに学習前と学習後の変化を書く工夫がされている。(P14-15、P70-71、P160-161)</p> <p>ウ 巻頭のガイダンスで「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなことかが、具体的に説明されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 調理実習の手順の流れや所要時間が記載されている。(P116等)</p> <p>イ 食生活では、科学的根拠や、副菜、汁物の調理例、日本各地の郷土料理や日本の主な行事食の例が写真で掲載され、衣生活では、イラストや動画で製作手順が示されている。(P140-145)</p> <p>ウ 幼児とのふれあいでは、実態に合わせて扱うことができるよう、5つの方法が示されている。(P44-49)</p> <p>エ 「ふりかえり」「生活にいかそう」をセットにして、学習のまとめりで学んだことを実生活に即して考えることができる。</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 安全や防災など注意喚起の記述があり、アレルギー物質を含む食品については、マークが示されている。(P116等)</p> <p>イ 日本独自の文化と先人の工夫に気づき、世界的視野から物事を把握し考えられるような工夫がされている。(P282-285)</p> <p>ウ 教科書の軽量化のため、軽くて薄く、丈夫な紙が採用されている。</p>

英語

外国語	英語	発行者番号 2	略称 東書	書名 NEW HORIZON
-----	----	---------	-------	----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 1年のYour Turnでは、段階的に書く力の定着が図られるよう、小学校で実施した4線・なぞり書きの活動が多く取り入れられている。(1年P17等)</p> <p>イ Grammar for Communication では、何度も学習できるよう、文法事項が既出の文法事項と関連づけながら説明され、定着を図る問題が掲載されている。(3年P30等)</p> <p>ウ 文法事項が反復的に学べるよう、関係する既出の文法と対応する教科書の学年・ページ番号が掲載されている。(2年P42等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学び方コーナー」では、学びを支えるよう、辞書の使い方、単語の覚え方、文章の組み立て方など、語彙・音声・表現・文章の4種のテーマから学習に役立つコツが紹介されている。(1年P65等)</p> <p>イ Let's シリーズでは、実生活に即した目的・場面・状況に合わせたコミュニケーション能力を伸ばす活動が設定されている。(1年P74等)</p> <p>ウ 1年間の自己評価ができるよう、各学年巻頭に「学習の見通しを立てよう」と、巻末に「学習を振り返ろう～CAN-DOリスト～」が設定されている。(巻末裏表紙)</p> <p>エ 自己表現活動につながるよう、Let's シリーズやMini Activityでは、Tool Boxで語句や表現が提示されている。(2年P75等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「小中高 CAN-DO リスト」に基づき、中学校卒業時の到達目標から、各学年の目標、各単元の目標が設定されている。(2年P70等)</p> <p>イ 各学年とも3つのStageから成り、各StageはUnit、Stage Activity、Let's シリーズで構成されている。(2年P2-3等)</p> <p>ウ 時間配当や年間指導計画が配慮され、1ページあたり1時間を基本とする構成になっている。</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年Unit0～5では、小学校での学習内容表現が網羅され、小学校の既習単語と扱った表現がアイコンで明示されている。(1年P12等)</p> <p>イ 小学校の単語(630語)が巻末資料として一覧で示されている。(1年P132-135)</p> <p>ウ 1年Small Talkでは、小学校で重視された活動が中学校で継続して行えるよう、トピックがまとめて提示されている。(1年P56等)</p> <p>エ 「Read and think」では、様々な文章のタイプと題材に対応する内容が扱われ、読む力を段階的に育成する構成になっている。(3年P40-43等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Unitの新出文法が使用される目的・場面・状況が捉えられるよう、各Unitに扉とPreviewが設定されており、2,3年では表紙裏見開きで、今日的な教育課題の中でUnitを紹介している。(1年P57-58等)</p> <p>イ 3つのStage末のStage Activityでは、領域統合的なパフォーマンス活動が設定されている。(2年P48-P49等)</p> <p>ウ Let's シリーズでは、Talk、Listen、Write、Readの各技能領域に特化した目的・場面・状況が設定された活動が扱われている。(2年P82等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 環境、福祉、防災、技術、情報化、国際理解、異文化理解、自然科学、人物伝、人権、平和などの題材が取り上げられ、2,3年では表紙裏見開きでは、Unitで扱う今日的な教育課題が写真で紹介されている。</p> <p>イ キャリア教育につなげられるよう、職業と関連した内容や自分の将来の夢を語る活動などが設定されている。(2年Unit3等)</p>

外国語	英語	発行者番号 9	略称 開隆堂	書名 SUNSHINE ENGLISH COURSE
-----	----	---------	--------	----------------------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア イラストを手がかりに内容を推測し、理解の助けになるよう、基本文について、漫画形式で対話文が提示されている。(2年 P60 等)</p> <p>イ 数、曜日、月などは、Word Web のコーナーにまとめられている。(1年 P68 等)</p> <p>ウ 3年間繰り返し基本動詞を確認できるよう、全ての学年の巻末に Action Card が付けられている。(1-3年巻末)</p> <p>エ 1年では、小学校で学習した単語が載せられている。(1年 P142-144)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 4技能5領域の能力で何が身についたか自己評価できるよう、全学年の巻末資料に「できるようになったこと」リストが設けられている。(1年 P156-157 等)</p> <p>イ 「英語のしくみ」で文法事項がまとめて解説され、語順が色別で整理されている。(1年 P35 等)</p> <p>ウ Interactでは、学んだ表現を使った、ペアやグループでのやりとりを通して自己表現する構成になっている。(2年 P14等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各 Program は、とびら(目標の確認) Scenes(場面で新しい表現練習) Think(題材内容を考える) Retell(自分の言葉で本文を語る) Interact(自己表現)という習得、思考、表現の流れで構成されている。</p> <p>イ Our Project は各学年に2~3回あり、場面と内容は発達段階に応じて身近な場面から社会的な場面に広がる構成になっている。(3年 P4-5)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 中学校英語への円滑な接続が図られるよう、小学校英語を生かす教材として Get Ready が設けられている。(1年 P7-15)</p> <p>イ 1年の巻末資料の単語リストは、アルファベットの頭文字がページの上にそろえて配列されている。(1年 P145-155)</p> <p>ウ 関連する文法事項を続けて学習できるよう構成されている。(2年 Program6-8)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 技能統合的にパフォーマンス活動を行う Our Project に連動した Steps では、マッピングやスピーチの構成、つなぎことばなどが扱われている。(2年 P78 等)</p> <p>イ 各 Program に Retell と Interact があり、教科書の内容を自分の言葉で表現したり、即興でやり取りしたりする活動が設定されている。(2年 P23-24等)</p>
その他	<p>ア 他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度が養えるよう、環境、平和、人権、共生、伝統文化、異文化理解などの課題が扱われている。</p> <p>イ キャリア教育につなげられるよう、職業と関連した活動や自分の将来の夢を語る活動などが設定されている。(2年 Program5、Our Project5)</p>	

外国語	英語	発行者番号 15	略称 三省堂	書名 NEW CROWN
-----	----	----------	--------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「聞く」「話す[やりとり]」「書く」を段階的に練習することによって自己表現の基礎を固めるよう、GETのページでは、基本文と既習文とが対比され提示されている。(1年P98等)</p> <p>イ 基本文の習得が図れるよう、新出言語材料の導入(Point)と練習(Drill)が確保されている。(2年P52-53等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア USE(Read)のページでは、読み取りのポイントを示すTipsや、代名詞が指す内容の確認を促すCheckの囲みが示されている。(1年P119等)</p> <p>イ USE(Write)のページでは、ライティングのヒントとなるよう、内容や表現の選び方についての「ひとりごと」が示されている。(1年P91等)</p> <p>ウ Think and Writeのコーナーでは、自分の考えや思いを伝えたり書いたりすることができるよう構成されている。(2年P13等)</p> <p>エ 巻末の付録に、話す・書く活動で使える「いろいろな単語」の語句リストが掲載されている。(1年付録P11-18等)</p> <p>オ 1年間で学んだことを振り返ることができるよう、巻末に自分の到達が確認できるCAN DOリストが配置されている。(各学年巻末)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各Lessonは、とびら、GET、USE・Take Action!で構成されている。</p> <p>イ USEではRead、Write、Speakが、Take Action!ではListen、Talkがあり、目的や場面、状況に応じてそれぞれの力を養う活動が設定されている。</p> <p>ウ 各学年のProjectでは、既習の言語材料を活用する技能(領域)統合型の言語活動が設定されている。(3年P118等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各学年冒頭にStarterが設定され、1年は小学校の復習、2、3年は前学年の復習ができるよう工夫されている。(1年P8-13等)</p> <p>イ Lesson1~3はリスニング活動から導入し、徐々に話す活動、書く活動に慣れさせる展開になっている。(1年P16-61)</p> <p>ウ 英文に関するタスクを通してまとまった量の英文を読み解く力が養えるよう、USE Read、Reading for funでは、370~470語程度の英文が掲載されている。(3年P108-110等)</p> <p>エ 英文以外の英語の資料から必要な情報を読み取る力が養えるよう、Reading for Informationが掲載されている。</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 各学年3つのProjectが設定され、聞いたことを参考に自分のことについて考え話し合う活動と、読んだことを参考に自分の発表原稿を書き、発表する活動で構成されている。(2年P118-121)</p> <p>イ 2・3年生の終わりのProjectではディスカッションを各学年の目標として位置付け、Take Action TalkやUSE Speakで話し合う活動を行い、ディスカッションにつなげる構成になっている。(3年P118-119等)</p> <p>ウ 題材や場面、それぞれのパートで学ぶ文法事項や言語活動を確認し、レッスンを通した学びの見通しを持つことができるよう、Lessonの「とびら」が設けられている。(1年P83等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 異文化理解、平和、日本の伝統文化、科学、環境問題、生命の尊重などの題材テーマが扱われている。</p> <p>イ キャリア教育につなげられるよう、職業と関連した内容や自分の将来の夢を語る活動などが設定されている。(2年Lesson2等)</p>



外国語	英語	発行者番号 17	略称 教出	書名 ONE WORLD
-----	----	----------	-------	--------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア Key Sentences を学習したあとに、その表現を Tool Kit を参考にしながらリスニングやチャット、ライティング等ができるよう構成されている。(2年P47等)</p> <p>イ 文法のまとめりごとに Grammar が設定され、語順や英文の作り方についてまとめられている。(1年P59等)</p> <p>ウ 赤色マスキングシートを使って自主的に学習できるよう、各学年に Activities Plus コーナーが設けられている。(2年P129-144等)</p> <p>エ 3年ではチャットに活用できるよう、トピックカードが掲載されている。(巻末)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア Grammar では Lesson で使った文のしくみを確認し、「ふり返ろう」のコーナーでは Lesson 全体の学習活動を振り返るための項目が示されている。(1年P32-33)</p> <p>イ Activities Plus のパートに即興で話すためのツールが用意され、既習事項を反復的に活用できるよう構成されている。(1年P132-141等)</p> <p>ウ 自立的な学習に役立つよう、How to study コーナーでは、学習方法の先輩からのアドバイスが取り上げられている。(3年P68等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 本文の内容や言語材料の理解が深められるよう、各 Lesson の最後に Review、Task、Grammar が設定されている。(3年P64-65等)</p> <p>イ 各 Lesson の後にマッピングなどの英語のコツを紹介する Tips や、スキットを通して表現を身につける活動の Useful Expressions が設定されている。(2年P28-29等)</p> <p>ウ 4技能5領域を統合的に活用して課題解決に取り組むための Project が2・3年は3回、1年は2回、設定されている。(3年P78-79等)</p> <p>エ Activities Plus では帯活動で使える Questions &amp; Answers や Topics for Speaking、「即興スピーチにチャレンジ!」が設定されている。(3年P121-131等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 小学校で学んだ英語を振り返りながら、中学校の学習に円滑につながれるよう、1年の Spring board1~4 が設定されている。(1年P4-11)</p> <p>イ 前学年で学習した内容を振り返りながら、新学年の学習への円滑な接続が図れるよう、2、3年の Review Lesson が設定されている。(2年P4-8等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア Project では4技能5領域を統合的に活用し、1年ではプレゼンテーション、2年ではスピーチ、3年ではスピーチやディベートのように段階的にコミュニケーションの幅が広がるよう、課題が設定されている。(3年P90-91等)</p> <p>イ Lesson の学習中、Activities Plus の活動を帯活動等で並行して行うことにより、既習の表現や文が活用できるよう、復習しながら進める構成になっている。(1年P132-141等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 異文化・日本の伝統文化、生命、環境、福祉、平和、人権、異文化理解などの題材が取り上げられている。</p> <p>イ キャリア教育につながれるよう、職業と関連した内容や、自分の将来の進路を語る活動などが設定されている。(3年Lesson4-7等)</p>

外国語	英 語	発行者番号 38	略称 光村	書名 Here We Go!
-----	-----	----------	-------	----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 音と文字を確かめ、答えを探し、音読する、の流れをパターン化し、理解の深化が図れるよう、各 Part に Listen and Read が設けられている。(1年 P86 等)</p> <p>イ 既習表現と関連づけて新出表現に慣れるよう、Speak で基本文の表現を用いて「話す [ やり取り ]」活動が設定されている。(1年 P89 等)</p> <p>ウ 「聞く・話す～読む・書く」という流れになるよう各 Part の活動では、Listen、Speak、Write の順序がパターン化されている。(2年 P53 等)</p> <p>エ Active Grammar では、文法事項のまとめりに語順で整理されている。(3年 P84-85 等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 帯教材の Let's Talk! では、選んで使えるように、話を始める質問文と答えの手がかりとなる表現が示されている。(1年 P144-145 等)</p> <p>イ Your Coach では、「音読の仕方」「辞書を引くコツ」「会話を続けるコツ」等の英語の学習の仕方が紹介されている。(1年 P102 等)</p> <p>ウ 意欲をもって学習を進められるよう、各学年、学習者のよくある質問に答えた「英語の学び方ガイド」が掲載されている。(2年 P6-7 等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア CAN-DO の観点から全教材が設定され、主教材( Unit )、帯教材( Sounds &amp; Letters、Story Retelling、Let's talk、Active Words )、小教材( Daily Life、World Tour、Let's Read、Active Grammar ) で構成されている。</p> <p>イ Unit は、紙面の順に 9 単位時間で授業を進められるよう、扉、Part1～3、Goal で構成されている。</p> <p>ウ 各学年3か所に、既習事項を活用して取り組む4技能5領域を統合した言語活動を行う You Can Do It! が設定されている。(2年 P92-93 等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 1年の Unit1～3 は、掲載する文章量や発音とつづりが一致するまでの読む文字の量が少なくなるよう工夫されている。(1年 P30 等)</p> <p>イ Let's Talk の帯活動は、同じテーマで継続的に話すことで成長を実感できるよう、3学年とも「This is Me」「My Life」「My future」という3つの共通テーマで構成されている。(2年 P136-137 等)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 各 Unit の扉では、Part1～3 の本文全体を通して聞き、大まかに内容を把握し、スライドアニメを見て答えを確かめながらストーリーの概要が理解できる流れになっている。(1年 P118-119 等)</p> <p>イ 各 Unit の Goal では、Unit の本文で学んだ内容と言語材料に関連付けながら、「聞く」「読む」活動や「話す(やりとり・発表)」「書く」自己表現活動が設定されている。(2年 P82-83 等)</p> <p>ウ You Can Do It! では、プレゼンテーションやポスターセッション、ディスカッションなど技能統合型の協同学習を通して学ぶ課題が設定されている。(2年 P48-49 等)</p>
その他	今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 日本の伝統文化、道徳的な内容、平和、人権や福祉、環境問題、将来の生き方、食生活や健康、異文化理解などの題材が扱われている。</p> <p>イ キャリア教育につなげられるよう、職業と関連した内容や自分の将来の夢を語る活動などが設定されている。(2年 P92-93 等)</p>

外国語	英語	発行者番号 61	略称 啓林館	書名 BLUE SKY
-----	----	----------	--------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 知識・技能の習得・活用・定着が図れるよう、各 Part に Target として、キーとなる語彙や表現が詳しく示されている。(1年 P67 等)</p> <p>イ 「Target のまとめ」では、理解の定着が図れるよう、文法事項がまとめて解説されている。(3年 P60-61 等)</p>
	自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア Notes では、発展した学びへの興味づけができるよう、題材に関する付加情報などが紹介されている。(1年 P50 等)</p> <p>イ 自分の言葉で表現する際の手助けとなるよう、活動の際に必要な語彙が Tool Box にまとめられている。(2年 P37 等)</p> <p>ウ 学期末の Project では、複数の Unit で学んだことを生かし、4技能5領域を統合的に活用できるような言語活動が設定されている。(3年 P90-91 等)</p> <p>エ 話す活動で学習した表現をまとめて振り返ることができるよう、巻末に Let's Talk 重要表現のまとめ(全学年)、全学年の会話表現のまとめ(3年のみ)が掲載されている。(3年 P109 等)</p>
内容の構成・配列について	単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各学年とも、Unit を中心に、統合的な言語活動を行う Project、技能ごとの Let's talk、Let's Listen、Let's Read で構成されている。(3年 P2-5 等)</p>
	各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 小学校の学習内容を復習しながら中学校への接続が図れるよう、1年の巻頭に Let's Start が設定されている。(1年 P8-21)</p> <p>イ 小学校の Let's Try!、We Can! で学習した語彙や表現をもとに反復的な学習ができるよう、題材が選定されている。(1年)</p> <p>ウ 2年の Unit1 で学習する過去進行形に接続が図れるよう、1年で be 動詞の過去形と一般動詞の過去形、現在進行形の学習を設定している。(1年 Unit8-10)</p>
	特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア プレゼンテーションやインタビュー、スピーチなど複数の Unit で学習した文法事項を活用する技能統合型の課題が Project として設定されている。(3年 P90-91 等)</p> <p>イ 3年の終わりには、ディスカッションやまとまった分量の英作文に取り組む Further Study が3年間のまとめとして設定されている。(3年 P92-95)</p>
その他	今日の教育的課題との関わりなど	<p>ア Read and Think において、異文化理解、平和、環境問題、自然愛護、福祉、人権などについての題材が扱われている。(3年 P56-57 等)</p> <p>イ キャリア教育につなげられるよう、職業と関連した活動や自分の将来の夢を語る活動などが設定されている。(2年 Unit8 等)</p>

道德

特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 2	略称 東書	書名 新訂 新しい道徳
----------	-----	---------	-------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、「話し合いの手引き」と、授業の流れを体験して学びの意欲を高めることをねらったオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P3-6)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、ねらいからそれないよう授業を展開するため、ねらいとなる内容項目に関連したテーマが示されている。</p> <p>ウ 2 学年に「読書で広げる道徳」が設けられている。(P189)</p>
内容の構成・配列 について	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 各学年、いじめ問題と生命の尊さについて、複数の教材を組み合わせたユニット構成になっている。(各学年目次)</p> <p>イ 全学年、いじめ問題が 4～5 月、生命の尊さが夏休み明けの 9 月に配置されている。</p> <p>ウ 各学年、年間 35 教材と 5 付録教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 各学年の巻末に、心の変化を可視化する心情円や意見交流等で活用するホワイトボード用紙が付属されている。</p> <p>イ 各学年に、他者の意見を意図的に記入する教材が複数設けられている。(1 年 P24、P27、P32、P57、2 年 P74-75、P131、3 年 P146、P150)</p> <p>ウ 各教材の終わりの「考えよう」に、中心発問に当たる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 導入において、複数の立場で考えて意見交換することを通して、問題解決を図る教材が設定されている。(1 年 P86-92、2 年 P130-134、3 年 P144-151)</p> <p>イ 役割演技等を取り入れた体験的な学習「アクション」が、各学年に 2 箇所設定されている。(1 年 P38、P104、2 年 P84、P142、3 年 P100、P138)</p> <p>ウ 「p4c」という対話を通して他者と問いを共有し、さまざまな視点から考えを深めていく活動が紹介されている。(1 年 P92)</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 各学期に自分の過去の学習を振り返り、未来の生き方を探ることができる、巻末の切り取り式シート「自分の学びをふり返ろう」が掲載されている。(1 年 P185-189、2・3 年 P193-197)</p> <p>イ 各教材に感じたことや考えたことを自由に書き込める「つぶやき」記入欄が設けられている。</p> <p>ウ 各教材の「自分を見つめよう」では、今後の自分について考える問いが設けられている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記表現の工夫など	<p>ア 何を学ぶかが視覚的に捉えられるよう、学習指導要領の 4 つの視点が、目次や各教材にマークで示されている。</p> <p>イ オリエンテーションページや巻末の「自分の学びをふり返ろう」に 4 段階の自己評価欄が設けられている。</p> <p>ウ 各学年、SDGs・情報モラルに関連した教材が取り上げられている。</p> <p>エ QR コードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>

特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 17	略称 教出	書名 中学道徳 とびだそう未来へ
----------	-----	----------	-------	------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳科での学びや、学びの深め方を体験するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P4,5)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、教材を通してどのようなことについて考えるのかを意識付けする問いが示されている。</p>
	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 生命の尊さ、いじめや差別のない社会について、複数の教材やコラムをまとめたユニット構成になっている。(各学年目次)</p> <p>イ 3年間を通して、同一の内容項目について考えを深めるシリーズ教材が2種類設けられている。(けやき中、3人の主人公)</p> <p>ウ 各学年、年間30教材と5補充教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 「やってみよう」に、話し合い活動が設定された教材が設けられている。</p> <p>イ 各教材の末尾の「学びの道しるべ」に、価値理解・人間理解・他者理解につながる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 巻頭に、考えを出して話し合い、考えを深める学びについて示されている。(全学年 P4,5)</p> <p>イ 各学年、役割演技や日常の体験を想起して話し合い活動を取り入れた「やってみよう」が設けられている。 (1年 P29、P81、2年 P13、P107、3年 P99)</p> <p>ウ 各教材の末尾に「学びの道しるべ」が設けられ、さまざまな角度から考えたり話し合ったりできる問いが示されている。</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 多様な人の生き方から学ぶため、人物に関わる教材が多く取り上げられている。</p> <p>イ 各教材の末尾の「学びの道しるべ」では、自分が今後どのように考え、どのように行動することが望ましいかを考えさせる問いが設定されている。</p> <p>ウ 各学年の巻末に、切り取り式シート「道徳の学びを振り返ろう」が設けられている。</p> <p>エ 各学年の巻末の振り返りに、「どんな自分になりたいか」を書くページが設けられている。</p> <p>オ 各学年の巻末に、「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が紹介されている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 何を学ぶかが視覚的に捉えられるよう、学習指導要領の4つの視点が目次や各教材にマークで示されている。</p> <p>イ 各学年、持続可能な発展、自然環境保全、生命倫理に関わる教材が取り上げられている。</p> <p>ウ 1年の1～10の教材の文字が、大きく示されている。 (1年 P8 -67)</p> <p>エ QRコードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>

特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 38	略称 光村	書名 中学道徳 きみが いちばん ひかるとき
----------	-----	----------	-------	------------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳の授業で何をどう学ぶのかを説明するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P6-9)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、ねらいからそれないよう授業を展開するため、ねらいとなる内容項目が示されている。</p>
	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 1年間を3つのシーズンに区切り、それぞれの学校生活を意識したテーマをもつユニット構成になっている。(各学年目次)</p> <p>イ 生命の尊さについての教材が、各学年3つずつ設けられている。(1年 P55、102、153、2年 P39、P121、P156、3年 P26、P68、P154)</p> <p>ウ いじめ問題と情報モラルについて、全学年で必ず「深めたいむ」が設けられている。(各学年目次)</p> <p>エ 各学年、年間31教材と4補充教材(「深めたいむ」と差し替え可能)が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 各学年の「なんだろうなんだろう」に、テーマが設けられ、より深く考えることをねらった教材が設けられている。(1年 P80-81「正義」、2年 P78-79「ゆるす」、3年 P84-85「自立」)</p> <p>イ 「深めたいむ」「広げよう」に、考えを深め広げることをねらった教材が設けられている。</p> <p>ウ 各教材の「考えよう」に、価値理解・人間理解・他者理解につながる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各教材の末尾に「見方を変えて」が設けられ、視点を変えた問いが示されている。</p> <p>イ 各学年、「見方を変えて」で役割演技への取り組みが提案されている教材が設けられている。(1年 P68、2年 P25、3年 P25)</p> <p>ウ 各教材の「つなげよう」で、他教材、他教科や日常生活との関連、関連図書が示されている。</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 各学年の巻末に、シーズンごとに自らの学びを振り返って書くシー「学びの記録」が設けられている。</p> <p>イ 1年間の変化、成長が実感できるよう、各学年の最後に1年間の学びを振り返るページが設けられている。(1年 P160、2年 P164、3年 P162)</p> <p>ウ 各学年の巻末に、著名人からの直筆メッセージを掲載した「あなたへのメッセージ」が設けられている。(1年 P182-183、2・3年 P190-191)</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の4つの視点が各教材にマークで示されている。</p> <p>イ いじめ問題、情報モラル、SDGsに関連した教材が取り上げられている。</p> <p>ウ QRコードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 116	略称 日文	書名 中学道徳 あすを生きる
----------	----------	-----------	-------	----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳科で学ぶことや道徳科での学び方について説明するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P2-3)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、ねらいからそれないよう授業を展開するため、主題名が示されている。</p>
内容の構成・配列 について	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 本冊と別冊「道徳ノート」で構成され、道徳ノートは発問欄が空欄になっている。</p> <p>イ 各学年、いじめ問題とよりよい社会の創造について、複数の教材やコラムを組み合わせたユニット構成になっている。(各学年目次)</p> <p>ウ 1年生は、いじめ問題を扱うユニットが3つ設けられている。(1年目次)</p> <p>エ 各学年、年間35教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 各教材において、道徳ノートに他者の意見を書く欄が設けられている。</p> <p>イ 各教材の終わりの「考えてみよう」に、考え、議論し、ねらいに迫るための発問例が示されている。</p> <p>ウ 各教材の終わりの「自分に+1」に、授業で学んだことを自分に生かすための発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げるコラム「プラットホーム」が設けられている。</p> <p>イ 「学習を深めるヒント」に、各学年に「考えを深める視点」が複数示されている。 (1年 P41、P103、P171、2年 P79、P173、3年 P19、P33、109)</p> <p>ウ いじめに関する学習で、同じ登場人物、場面において、別の立場から描いた教材が設けられている。(2年 P30、P34)</p> <p>エ 道徳ノートに自分と友だちの意見や話し合いの内容を記入する欄が設けられている。</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 多様な人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられている。</p> <p>イ 道徳ノートは自分の考えを継続的に書くことができ、巻末には振り返りと保護者記入欄のページが設けられている。</p> <p>ウ 生き方のヒントや応援メッセージのコラム「私の生き方」が掲載されている。(1・3年4つ、2年2つ)</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 各教材のはじめに、登場人物や作者が写真等で紹介されている。</p> <p>イ 道徳ノートには、教材ごとにその学習における5段階の自己評価記入欄が設けられている。</p> <p>ウ SDGsに対応する幅広いテーマが取り上げられている。</p> <p>エ QRコードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>



特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 224	略称 学研	書名 新・中学生の道徳 明日への扉
----------	-----	-----------	-------	-------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳で学ぶことや考えることについて説明するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P2-3)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、教材への関心を高めることをねらった問いかけ等が示されている。</p>
	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 生命の尊さについて、各学年 3 つの教材が設けられている。(1年 P16、P96、P166、2年 P66、P94、P166、3年 P26、P108、P146)</p> <p>イ SDGs とキャリア教育については、全学年で複数の教材を扱うユニット構成になっている。(各学年目次)</p> <p>ウ 各学年の「クローズアッププラス」で、生命の尊さやいじめ防止等につながるテーマが扱われている。</p> <p>エ 各学年、年間 35 教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 「深めよう」には、問題解決的な学習が設定されている。(1年 8 つ、2年 6 つ、3年 6 つ)</p> <p>イ 視野を広げ、考えを深めることをねらって、一つの内容項目に対してインタビューや意見等を複数掲載している教材が設けられている。</p> <p>ウ 各教材の末尾の「考えよう」に、価値理解・人間理解・他者理解につながる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各学年の「深めよう」に、役割演技を取り入れた教材が設けられている。(1年 P37、2年 P89、3年 P61)</p> <p>イ 他の内容項目から生命の尊さを学ぶ教材が設けられている。(1年 P60、P80、P170、2年 P34、P102、P114、P152、3年 P20、P78)</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられている。</p> <p>イ 各学年の巻頭に、現在の自分を見つめて記述するページ「マイプロフィール」が設けられている。(各学年 P9)</p> <p>ウ 各学年の巻末に、学期ごとに振り返って記述する切り取り式シート「学びの記録」が設けられている。(1年 P177-183、2・3年 189-195)</p> <p>エ 各学年の教材の「深めよう」の中に、「生き方につなげよう」の欄が設けられている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の 4 つの視点が目次や各教材にマークで示されている。</p> <p>イ 巻末の「学びの記録」に、学期ごとに 4 段階の自己評価欄が設けられている。</p> <p>ウ SDGs、情報モラル、いじめ防止、キャリア教育に関する教材が取り上げられている。</p> <p>エ QR コードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>

特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 232	略称 廣あかつき	書名 中学生の道徳
----------	-----	-----------	----------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳について説明するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P2-3)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、自由な発想を促すため、内容項目やテーマ、問いかけ等が示されていない。</p> <p>ウ 教材の終わりに、めあてや発問例が示されている。</p>
内容の構成・配列 について	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 本冊と別冊「道徳ノート」で構成され、道徳ノートには内容項目ごとに解説の文章が記載されている。</p> <p>イ 「自主、自律、自由と責任」、「思いやり、感謝」、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、それぞれ各学年3つの教材が設けられている。</p> <p>ウ 各学年、年間35教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 「thinking」に、教材で学んだ内容項目について理解を深めることをねらった教材が設けられている。(各学年3つ)</p> <p>イ 各教材の末尾に、学習した内容項目に関する名言が1つずつ掲載されている。</p> <p>ウ 各教材の末尾の「学習の手がかり」に、価値理解・人間理解・他者理解につながる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各教材の末尾の「考えを広げる・話し合う」に、「考えを広げる・深める」視点が示されている。</p> <p>イ 現代的な課題に関する教材について、複数の視点からの意見を基に考える教材が設けられている。(1年 P106、2年 P25、3年 P124)</p> <p>ウ 自分や他者の考えが書き留められるよう、道徳ノートが左右2段で構成されている。</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 道徳ノートに、自分を見つめて記述するページ「中学 年生の私」が設けられている。</p> <p>イ 道徳ノート巻末には、学習の記録、心に残っている授業や話し合いの記録を記述するページが設けられている。(各学年 P26-44)</p> <p>ウ 各教材に提示されている「考えを広げる・深める」の欄に自己との関わりで考える問いが設けられている。</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 道徳ノートの巻末に、授業ごとに5段階の自己評価欄「学習を振り返って」が設けられている。</p> <p>イ いじめ問題や情報モラルに関連した特集ページが各学年の巻末に設けられている。</p> <p>ウ 1年は、本文の文字サイズが大きめに設定されている。</p> <p>エ QR コードが設けられている教材では、学習の参考となる関連資料などの学習支援が準備されている。</p>

特別の教科 道徳	道 徳	発行者番号 233	略称 日科	書名 道徳 中学
----------	-----	-----------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳科で学ぶことについて説明するオリエンテーション教材が設けられている。(各学年 P4-5)</p> <p>イ 各教材の冒頭に、自由な発想を促すため、内容項目やテーマ、問いかけ等が示されていない。</p>
内容の構成・配列 について	学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 教材が内容項目順に配列され、自由に活用順を決められるようになっている。(各学年目次)</p> <p>イ 3年間を通して同一の内容項目について考えを深める「リョウとマキ」シリーズ教材が設定されている。(1年 P60、2年 P48、3年 P68)</p> <p>ウ 各学年、年間 37 教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 「考えてみよう」に、考えを深め広げることをねらった教材が設けられている。(1年 P72、3年 P22)</p> <p>イ 「話してみよう」に、意見交流を通して考えを深め広げることをねらった教材が設けられている。(2年 P21、3年 P78、P125)</p> <p>ウ 各教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」に、価値理解・人間理解・他者理解につながる発問例が示されている。</p>
	物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 巻頭に、多様な考えを知るためのポイントが示されている。(各学年 P4-5)</p> <p>イ 各学年、様々な見方や考え方について話し合う教材が設けられている。(1年 P70、P130、2年 P22、P70、P96、3年 P74、P88)</p> <p>ウ 学習内容に関連したコラム「もっと知りたい」が設けられている。(1年 P103、P169、2年 P47、P84、P103、P152、3年 P21、P27、P99、P148)</p>
	自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 各学年、巻頭に、自分を見つめて記述するページ「今の僕、私」が設けられている。(各学年 P6)</p> <p>イ 各学年、巻末に、振り返りを書くページ「年生の心の成長を振り返りましょう」が設けられている。(各学年 P190)</p> <p>ウ 1・2年の内容に、自分自身を見つめて書くページ「書いてみよう」が設けられている。(1年 P84、2年 P24)</p>
その他	今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 目次や各教材に、内容項目が番号で示されている。</p> <p>イ 巻末の振り返りページでは、内容項目ごとに4段階の自己評価欄が設けられ、自己評価の規準(理解面・行動面)について示されている。(各学年 P190)</p> <p>ウ 2年の内容に、LGBT について学習する教材が設けられている。(2年 P64-69)</p>